

榛原町内遺跡発掘調査概要報告書 2002年度

榛原町文化財調査概要 27

2004

榛原町教育委員会

# 榛原町内遺跡発掘調査概要報告書 2002年度

榛原町文化財調査概要 27

2004

榛原町教育委員会



須恵器窯壁（図24-14）

## 例　　言

- 1 本書は、平成14年度（2002年度）に榛原町教育委員会が国庫補助事業・県費補助事業として実施した「榛原町内遺跡」の発掘調査概要報告書（榛原町文化財調査概要 27）である。
- 2 発掘調査は、平成14年度（2002年）4月17日に着手し、平成15年（2003）3月31日に終了した。なお、本書の刊行は、平成15年（2003年）度事業として実施したものである。
- 3 現地調査は、奈良県教育委員会及び奈良県立橿原考古学研究所の指導のもと、榛原町教育委員会生涯学習課主任 柳澤一宏が担当した。
- 4 調査組織及び関係者は、「I 埋蔵文化財発掘調査の概要」に掲載している。
- 5 測量図及び遺構図の方位は、国土座標第VI系を基準とする座標北（N）を用いているが、一部には磁北（M.N）も使用している。なお、平成14年4月1日施行の測量法改正により、測量の基準が日本測地系から世界測地系になっているが、本書では、これまでの遺跡測量成果等の都合上、日本測地系によっている。
- 6 土層の色調は、『新版標準土色帖』1997年後期（農林水産省農林水産技術会議事務局監修（財）日本色彩研究所色票監修）を参考にしている。
- 7 各遺跡の調査記録、出土遺物等は、榛原町教育委員会において保管している。
- 8 本書の執筆・編集は柳澤が行い、一部を横澤 慶が補佐した。

# 目 次

I	埋蔵文化財発掘調査の概要	1
1	埋蔵文化財発掘調査の概要	
2	調査組織等	
II	位置と環境	5
1	地理的環境	
2	歴史的環境	
III	山辺三中村遺跡第2次発掘調査概要	7
1	調査の契機と経過	
2	位置と環境	
3	遺跡の調査	
4	まとめ	
5	抄録	
IV	清水谷遺跡第1次発掘調査概要	14
1	調査の契機と経過	
2	位置と環境	
3	遺跡の調査	
4	まとめ	
5	抄録	
V	下城・馬場遺跡第8次発掘調査概要	18
1	調査の契機と経過	
2	位置と環境	
3	遺跡の調査	
4	まとめ	
5	抄録	
VI	萩原薬師田遺跡第1次発掘調査概要	24
1	調査の契機と経過	
2	位置と環境	
3	遺跡の調査	
4	まとめ	
5	抄録	

報 告 書 抄 録

# I 埋蔵文化財発掘調査の概要

## 1 埋蔵文化財発掘調査の概要

榛原町では、1968年（昭和43年）以降、土木工事等の開発行為に伴い、生活環境をはじめ、地理的環境・歴史的環境も大きく変化してきている。土木工事等の開発行為の増加とともに埋蔵文化財の発掘調査も町内各所で行われ、周辺の山野とともに大きく景観を変え、その姿を消している。

このような状況のもと、榛原町教育委員会では、1986年に町内遺跡の遺跡詳細分布調査を実施し、いわゆる「遺跡分布地図」の整備をはかり、「榛原町遺跡分布調査概報」を刊行した。その後、新たな調査成果等をもとに、1993年には「榛原町遺跡分布地図」を刊行し、「遺跡分布地図」の改訂、2000年度には「遺跡分布地図」の改訂並びにデジタル化を行い、埋蔵文化財の保存・活用をはかっていく基礎資料としている。

毎年、町内各所で開発行為が計画・実施されており、埋蔵文化財の取り扱い等については、「遺跡分布地図」をもとに事業者等とその都度、協議を重ねているところである。

2002年度（平成14年度）に榛原町教育委員会が取り扱った遺跡有無確認踏査願・埋蔵文化財発掘届・通知、発掘調査等の件数は表1のとおりである。また、2002年度（平成14年度）に実施した発掘調査・工事立会は表2・図1のとおりである。なお、本書には、国庫補助事業・県費補助事業として実施した事業の山辺三中村遺跡（2次調査）、清水谷遺跡（1次調査）、荻原薬師田遺跡（1次調査）、下城・馬場遺跡（8次調査）の調査概要を収録している。なお、下城・馬場遺跡については、調査成果が整理途上にあるため、一部を登載しているにすぎない。

表1 2002年度（平成14年度）発掘届・発掘調査件数等一覧表

遺跡有無確認踏査願	埋蔵文化財発掘届（民間）	埋蔵文化財発掘通知（公）	埋蔵文化財発掘届・通知合計	発掘調査（町担当）	工事立会（町担当）	調査件数
1	7	2	9	4	5	9

種別	摘要	遺跡名	所在地	調査原因	事業主体	面積	措置等
	遺跡有無確認踏査願		内牧85-1	岩石採取（土砂採取）	側岡野土木建材		明確な遺構・遺物なし、工事実施
埋蔵文化財発掘届（民間）	鳥見山中腹遺跡	荻原元荻原2741-2		電柱設置工事	関西電力㈱ 高田営業所	1.8nf	2002年度 町工事立会
	丹切遺跡	下井足14-1		マンション販売事務所等建設工事	株日本ベルアージュ	381nf	2002年度 町工事立会
	清水谷遺跡	荻原元玉小西2008-16 外3筆		個人住宅建設工事	松藤成志	279.59nf	2002年度 町工事立会
	下城・馬場遺跡	沢1259、1296		個人農地改良工事	砥出嘉信	1.117nf	2003年度 町発掘調査
	丹切遺跡	下井足89-7		店舗付住宅新築工事	株榮光ホーム	109.07nf	2002年度 町工事立会
	山辺三中村遺跡	山辺三1728		個人住宅建設工事	石田歎	305.91nf	2002年度 町発掘調査
	福西城開墾遺跡 (仮称)	福西187		個人土取・農地造成工事	久我清司	4.132nf	2003年度 町発掘調査
埋蔵文化財発掘通知（公）	山辺三中村遺跡、 猿煙神社前遺跡	山辺三		公共下水道管理設工事	榛原町（下水道課）	177.3nf	2002年度 町工事立会
	女寄遺跡	笠間		道路擴張工事	奈良県 桜井土木事務所	450m <sup>2</sup>	奈良県立榛原考古学研究所調査予定

表2 2002(平成14)年度発掘調査等一覧表

番号	調査機関	調査地番	遺跡名	調査地	現地調査期	調査原因	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査概要		備考
								遺構	遺物	
1	発掘調査	新潟市東区東城町1番地 新潟県立歴史博物館	2-546 下城・別場遺跡 (8次調査)	新潟市東区 1288,1292	2002/04/17 2002/10/04	発掘調査 (原凶者) (篠原町)	285 焼石建物、土坑、ヒト、カ外面 瓦、瓦質土器、青瓦、陶器、磁器、鏡、 鍍金、銅鏡、鏡玉、砾石、歩輪、鏡、 基石、鏡灰、瓦、壁土、焼化物他	サヌカハレ・剝離器・土師器・瓦器、 瓦質土器、青瓦、陶器、磁器、鏡、 鍍金、銅鏡、鏡玉、砾石、歩輪、鏡、 基石、鏡灰、瓦、壁土、焼化物他	縄文時代～古墳時代・ 平安時代～中世の遺物散布地	本署所蔵
2	発掘調査	・	1-20 東城町明治通 (1次調査)	新潟市東区 元玉小西 2236	2002/04/30 2002/09/09	個人住宅建設 工事	25 土坑、ヒト	須恵器・土師器・瓦器	古墳時代・中世の 遺物散布地	本署所蔵
3	発掘調査	1-21 12-D-60	新潟市東区 元玉小西 2014-4	新潟市東区 元玉小西 2014-4	2002/11/01 2002/11/07	個人住宅建設 工事	1 なし	須恵器・土師器・瓦器	弥生時代～古墳時代・ 中世の遺物散布地	本署所蔵
4	発掘調査	3-8 103-36	山延三町付道跡 (2次調査)	新潟市東区 山延三丁 1728	2003/03/11 2003/03/11	個人住宅建設 工事	21 なし	須恵器・土師器・瓦器、瓦質土器、 瓦、陶器、磁器	縄文時代～古墳時代・ 平安時代～中世の 遺物散布地	本署所蔵
5	立会調査	1-98 15-B-8	丹沢通跡 元板原 164-5	新潟市東区 元板原 164-5	2002/04/10 2002/08/06	事務所新築 (注合健長) 工事	5 なし	須恵器・土師器・瓦器、瓦質土器、 瓦、陶器、磁器	縄文時代～中世の 遺物散布地	本署所蔵
6	立会調査	1-98 15-B-8	丹沢通跡 下井足14-1	新潟市東区 下井足14-1	2002/08/12	事務所新築 (アーチェ) 工事	14 なし	須恵器・土師器・瓦器、瓦質土器、 瓦、陶器、磁器	縄文時代～中世の 遺物散布地	本署所蔵
7	立会調査	1-9 103-38	新潟市東区 山延二	新潟市東区 山延二	2002/08/12	下水道管理設 工事	14 なし	須恵器・土師器・瓦器、瓦質土器、 瓦、陶器、磁器	縄文時代～中世の 遺物散布地	本署所蔵
8	立会調査	1-14 12-D-6	鳥見山中里通跡 元板原 2741-2	新潟市東区 元板原 2741-2	2002/10/11 (開西電力㈱)	電柱設置工事	1.8 なし	須恵器・土師器・瓦器、瓦質土器、 瓦、陶器、磁器	縄文時代～弥生時代 の遺物散布地	本署所蔵
9	立会調査	1-98 15-B-8	丹沢通跡 下井足9-7	新潟市東区 下井足9-7	2002/12/27	店舗付住宅 新築工事 (株光光ホール)	0.5 なし	須恵器・土師器・瓦器、瓦質土器、 瓦、陶器、磁器	縄文時代～中世の 遺物散布地	本署所蔵



図1 2002(平成14)年度 調査遺跡位置図

## 2 調査組織等

2002年度の現地調査及び2003年度の整理作業等の関係者は、次のとおりである（敬称略）。

総括 教育長 田村義治

庶務 事務局長 米田 実

生涯学習課

課 長 石本淳應

課長補佐 打越明美、合田憲二

主 事 木戸千秋

調査 主 任 柳澤一宏

山辺三中村遺跡（第2次調査）

補助員 横澤慈、上西高登、笠井健嗣、鷹野義朗、峯健太郎

指導・助言 奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所

協 力 石田勲、山崎工務店

清水谷遺跡（第1次調査）

補助員 井上好美、横澤慈、上西高登、笠井健嗣

指導・助言 奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所

協 力 松藤成志、田澤一級建築設計事務所、一条工務店

下城・馬場遺跡（第8次調査）

補助員 井上好美、浅井博子、横澤慈、上西高登、山岡政郁、笠井健嗣、鷹野義朗、峯健太郎、岡田千代美、岡祐二

作業員 速藤晴見、岡野イエ、橿原栄子、大門静、古川マサエ、古城シズ子

指導・助言 奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所、辻本宗久

協 力 松本義夫、松本義知、田中昇、田中敏昭、沢自治会

荻原薬師田遺跡（第1次調査）

補助員 井上好美、横澤慈、上西高登、山岡政郁、笠井健嗣、鷹野義朗、峯健太郎

作業員 速藤晴見、橿原栄子、大門静、古川マサエ、古城シズ子

指導・助言 奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所、植野浩三、菅谷省吾、小野文司

遺物写真撮影 佐藤右文

協 力 上野元嗣、上野弘、住友林業㈱

## II 位置と環境

### 1 地理的環境

奈良盆地の東方の山間部に宇陀と呼ばれている地域が広がっており（図2）、現在の行政区画では大字陀町、株原町、菟田野町、室生村、曾爾村、御杖村からなっている。この宇陀地方は地理的な状況から西半と東半に大別でき、一般に前者が「口宇陀」、後者が「奥宇陀」とも総称されている。口宇陀は標高300~400mの丘陵とこの間に縫って流れる中小河川が複雑に入り乱れ、これらが幾つもの小盆地や浅い谷地形を形成しており、口宇陀盆地とも呼ばれ、大宇陀町、株原町、菟田野町の大半がここに含まれている。これに対し、東部の奥宇陀は室生山地、高見山系などの険しい山々が連なっており、奥宇陀山地とも呼称されている。口宇陀地域の主要河川は、西に宇陀川、東に芳野川があり、幾つもの小河川を合わせながら株原町萩原で宇陀川本流となる。株原町を後にした宇陀川は三重県で名張川となり、木津川、淀川を経て遠く大阪湾へと至り、大和川流域とは水系を異にしている。

株原町の四周は概ね標高約400~800mの山塊に囲まれ、東は高城岳、三郎岳、室生村へと通じる石割峠があり、北は大和高原とを区切る額井岳、香醉山、鳥見山などの山々が屏風状に連なり、宇陀の地を見下ろしている。西は桜井市や大宇陀町、南は菟田野町となっており、丘陵稜線をもってそれぞれの境界としている。地形的にみれば株原町の西半は口宇陀的、東半は奥宇陀的な様相を呈している（図1）。



図2 株原町位置図

### 2 歴史的環境

宇陀地方は、「古事記」、「日本書紀」をはじめとする多くの文献に度々登場し、これらの内容等からこの地は軍事・交通の要衝であったことを窺い知ることができ、今に残る地名や伝承なども多い。また、株原町を流れる宇陀川・芳野川・内牧川流域の各所には多くの遺跡が分布しており、発掘調査・分布調査を重ねるたびにその数も増加している。

これまでに、宇陀郡内では4点の有舌尖頭器が出土しており、うち、3点が町内から出土していることが明らかとなっている。これらは、縄文時代草創期～早期に求めることができ、この頃が宇陀地域の歴史の初源であろう。

縄文時代の遺跡の多くは、先述の河川流域の河岸段丘上、尾根上、谷部等に認められる。これらの遺跡の多くは、採集遺物によっているため、その実態が必ずしも明らかとはいえない。また、発掘調査によって確認された場合でも、数点の遺物が出土しているのみで遺跡の全容が明らかになったものは少ない。このような状況のもと高井遺跡や坊ノ浦遺跡では、早期から後期にわたる集落跡であることが発掘

調査によって明らかとなっている。

弥生時代前期から中期の遺跡は、沢遺跡、下城・馬場遺跡、大貝ヒキ山遺跡、上井足北出遺跡をはじめとする数遺跡が知られているにすぎないが、後期の遺跡は比較的多く認められる。これらは、地理的制約のためか奈良盆地で見られるような大規模な集落ではないが、次代の古墳時代へと継続するものが多い。

弥生時代後期から古墳時代前期の墳墓である台状墓は、これまでに野山遺跡群、能峰遺跡群、下井足遺跡群、大王山遺跡群、キトラ遺跡などで確認されている。弥生時代後期の集落としては、高塚遺跡、能峰中島遺跡、上井足北出遺跡、古墳時代の集落としては、先の遺跡の他、戸石・辰巳前遺跡、高田垣内遺跡、谷遺跡、石榴垣内遺跡、坊ノ浦遺跡などを挙げることができ、谷部を流れる川跡や窪穴住居跡などが確認されている。

古墳時代前期の古墳は谷畠古墳、中期の古墳としては高山1号墳、シメン坂1号墳、前山1号墳などが発掘調査によって明らかにされている。後期となると古墳数は著しく増加し、ある程度の粗密があるものの、町内各所の尾根上には數基から十数基単位で分布している。5世紀後半から盛期を迎える古墳群は野山古墳群、沢古墳群、栗谷古墳群、大王山古墳群、丹切古墳群などが知られている。6世紀後半以降、今までの木棺直葬墳にかわって横穴式石室墳が築造されるようになり、丹切古墳群、能峰古墳群、石田古墳群、大貝古墳群、西谷古墳群をはじめ、多くの古墳が発掘調査によって状況が明らかになっている。

横穴式石室にかわる新しい葬法として火葬墓が登場してくるが、最も代表的なものが、壬申の乱で活躍した將軍のひとりで渡来系氏族でもある文祢麻呂の墳墓である。現在、墳墓は史跡、墓誌などの出土品は国宝となっている。

古代末には、宇陀においても莊園の開発が急速に進み、坊ノ浦遺跡や高井遺跡では、掘立柱建物跡や素掘溝などを確認している。この頃から台頭してくる地武士団は、興福寺、春日社などの支配のもと各自が發展を続けた。この武士団は「宇陀三人衆」の秋山氏・澤氏・芳野氏に代表され、彼らは秋山城、澤城、芳野城をそれぞれの居城としていた。また、小規模な城館跡も各所に点在しており、城館の廃絶後、中世墓地と化したところもある。いわゆる中・近世墓地は、まとまったところでは、大王山遺跡、能峰遺跡群、八咫鳥遺跡群、野山遺跡群などが発掘調査により明らかにされている。

紙幅の都合上、多くを述べることができないが、「位置と環境」は、以前からも他の報告書等に記載されており、次の文献が詳しい。

- |                   |           |      |
|-------------------|-----------|------|
| 『宇陀・丹切古墳群』        | 奈良県教育委員会  | 1975 |
| 『大王山遺跡』           | 橿原町教育委員会  | 1977 |
| 『能峰遺跡群』 I         | 奈良県教育委員会  | 1986 |
| 『下井足遺跡群』          | 奈良県教育委員会  | 1987 |
| 『野山遺跡群』 I         | 奈良県教育委員会  | 1988 |
| 『高田垣内古墳群』         | 奈良県教育委員会  | 1991 |
| 『大和宇陀地域における古墳の研究』 | 宇陀古墳文化研究会 | 1993 |
| 『石榴垣内遺跡』          | 奈良県教育委員会  | 1997 |

### III 山辺三中村遺跡第2次発掘調査概要

#### 1 調査の契機と経過

山辺三中村遺跡は、1999年（平成11）の第1次調査によって縄文時代～古墳時代、平安時代～中世の遺物散布地であることが明らかとなり、中世の居館跡とも考えている遺跡である。この遺跡の範囲としている東半部の一部において、個人住宅の新築工事が計画され、2003年（平成15）3月には埋蔵文化財発掘届が提出された。関係機関等が遺跡の取り扱い、発掘調査の実施方法等を協議した結果、榛原町教育委員会において調査を担当することとなった。届出地は、遺構・遺物の状況が明らかでないため、確認調査を実施することとし、現地調査は、2003年（平成15）3月11日に実施した。

#### 2 位置と環境

山辺三中村遺跡は、近鉄榛原駅を中心とする市街地の北東約4kmに位置し、尾根先端部分に形成された標高約300m～約335mの傾斜面に立地する。遺跡の北辺と南辺部分には、住宅等が建設されているが、中央部分は水田や畠地などの旧形が保たれている（図3・6、図版1）。

遺跡西隣の尾根上には、中世の山城である山辺中城跡や山辺西城跡、東方には山辺篠畠城跡、式内社の「猿神神社」が位置する。また、当地は大和と東国とを結ぶ古代からの主要交通路のひとつで、かつては、「伊勢街道（あお越えみち）」が脈わりをみせた。現在は、国道165号線や近鉄大阪線がその役割を担って東西に走る。

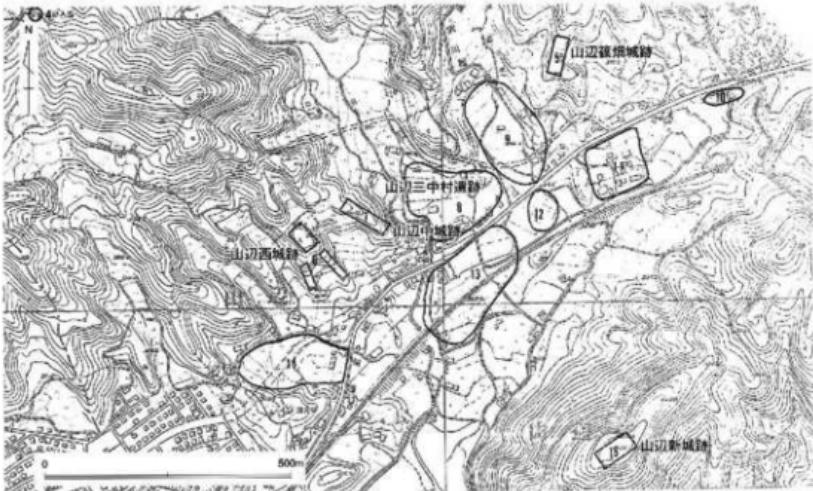


図3 山辺三中村遺跡位置図（榛原町遺跡地図）

### 3 遺跡の調査

#### (1) 調査区と基本層序 (図4・5、図版2・3)

工事予定地 (敷地面積: 約305m<sup>2</sup>、建築面積: 約103m<sup>2</sup>) のうち、建物建設予定地内に1箇所のトレチを設定し、遺構・遺物の検出につとめた。

トレチ北半は、耕作土下は、褐色の地山面であるが、南半は落ち込みが認められる。この落ち込み内の基本層序は、第1層が耕作土、第2層が暗褐色土、第3層が褐色粘質土、第4層が褐色土となっている。建物基礎が深くないことから、これ以上の掘り下げは行わないこととし、調査範囲を小規模にとどめている。

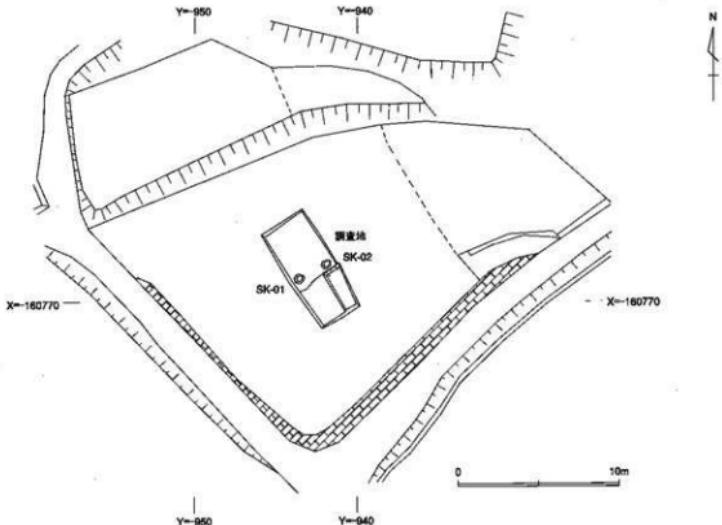


図4 山辺三中村遺跡（2次調査）調査位置図

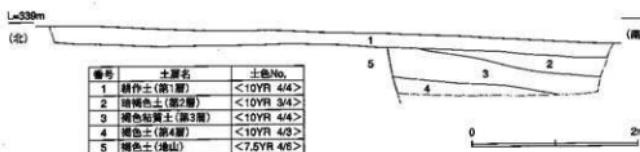


図5 山辺三中村遺跡（2次調査）土層断面図

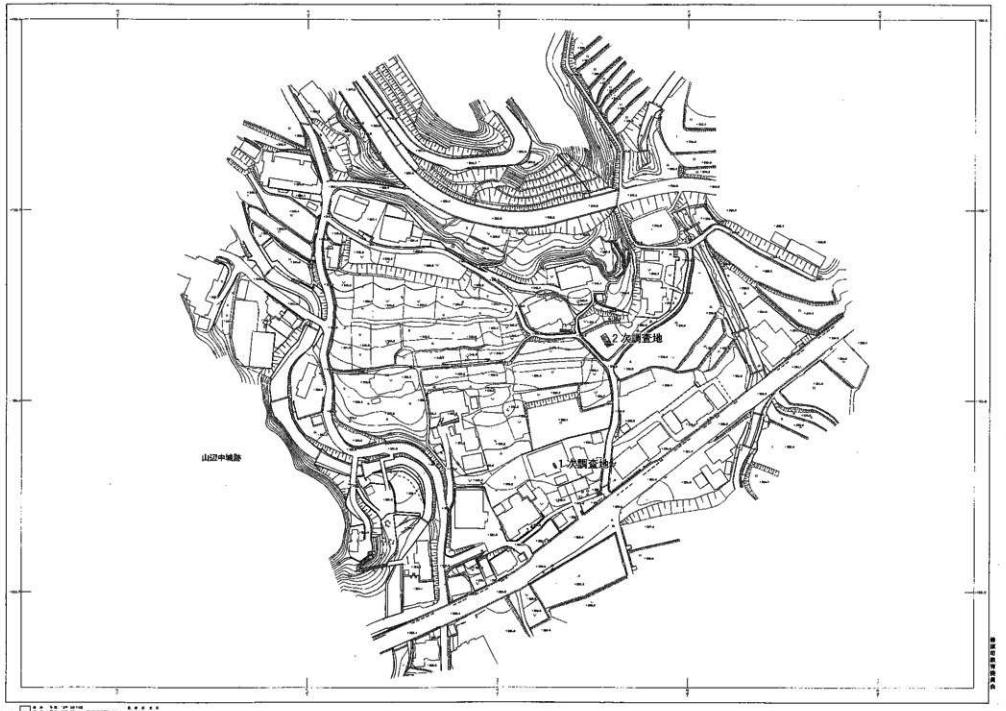


図6 山辺三中村遺跡調査位置図

(2) 検出遺構 (図7、図版3)

2基の土坑を確認している。西側の土坑 (SK-01) は径55cm~60cm、深さ19cmの円形土坑である。埋土は暗褐色土である。東側の土坑 (SK-02) は径50cm~60cm、深さ16cmの円形土坑である。埋土はにぶい黄褐色土で、土師器細片が出土している。

これらはいずれも中世以降のものであるが、明確な性格は明らかにできない。

(3) 出土遺物 (図8、表3)

南半の落ち込み埋土より須恵器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、土坑内から土師器が出土しているが、いずれも細片である。落ち込み埋土出土の須恵器は変体部片で6世紀代、瓦器碗は13世紀前葉から中葉、土師器炮烙、磁器丸碗等は18世紀代の範疇で捉えることができるものである。これらの遺物は調査地周辺を整地する際、周辺の土砂とともにたらされたものと推定できる。

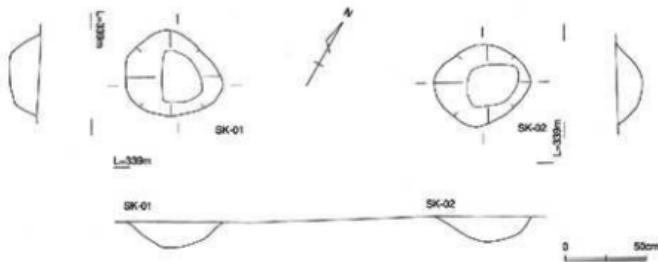


図7 山辺三中村遺跡（2次調査）遺構実測図

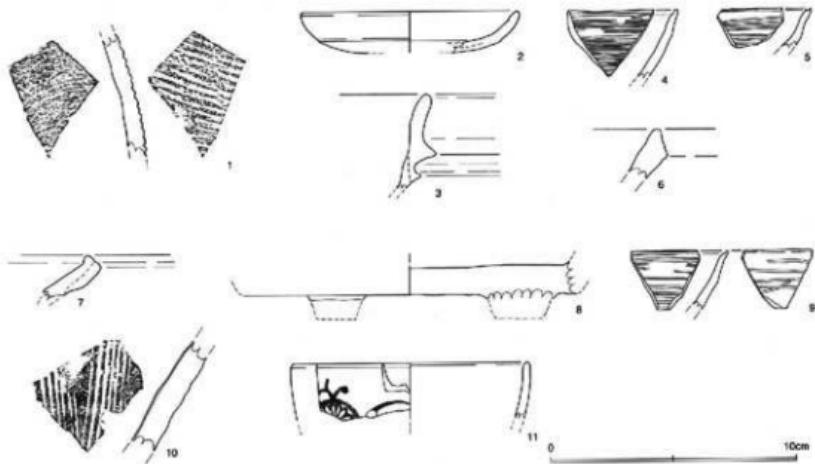


図8 山辺三中村遺跡（2次調査）出土土器実測図

### 1 落ち込み堀土出土土器（図8－1～6）

須恵器 壺（1）は、体部細片のみで詳細は明らかにできないが、内面に同心円文、外面に格子ふう叩き目文を施す。

土師器 皿（2）は、口縁部はやや内彎気味に上方にのび、口縁端部を丸くおさめる。炮烙（3）の口縁部は外反気味に外上方へのび、口縁端部は丸くおさめる。口縁部下半には断面形態が三角形の突帯2条をめぐらす。

瓦器 梱（4・5）は、口縁部の細片で、端部には沈線をめぐらせ、内面にはヨコ方向の暗文を施す。

陶器 鉢（6）は、口縁端部のみの細片で、口縁端部の断面は三角形状を呈する。

### 2 表土等出土土器（図8－7～11）

土師器 土釜（7）は、口縁部の細片で、端部をややつまみあげ、外面に浅い凹線をめぐらせる。

土師質土器 鉢（8）は、火鉢とも考えられ、本来、円形の底部外面に径約3cmの短い脚を付していったものである。

瓦器 梱（9）は、口縁部の細片で、口縁端部には沈線を施す。

陶器（無釉焼締陶器） 摺鉢（10）の体部内面には7条1単位の摺目を施す。

磁器（染付磁器） 丸碗（11）の口縁部は、やや内彎気味に上方にのび、口縁端部を丸くおさめる。肥前系と考えられる。

## 4 ま と め

山辺三中村遺跡西隣の尾根上には、中世の山城である山辺中城跡、山辺西城跡、東方には山辺篠畠城跡、谷を挟んだ南東約600mの山頂には山辺新城跡が確認されており（図3・図9～11）、これらは山辺氏の居城であったともいわれている。

当遺跡内には、彦作フルヤシキ、フルヤシキ、堂ノ前、庄屋敷垣内、寺ノ下、寺脇などと建物跡を推定できる小字名が残っており、居館跡とも推定しているところである。なお、当遺跡内には山辺氏の末裔とも伝えられている旧家もあり、また、中世の遺物散布状況などからも、当遺跡は山辺氏の居館跡である可能性が高いといえよう。

今回の発掘調査では建物遺構や多くの遺物は認められず、遺跡東端にあたるものと考えられ、小字名や遺物の散布状況等から遺跡の中心は、調査地西側の畠地にあるものと推定される。今後も調査を継続し、全容を明らかにしていかなければならない遺跡のひとつと考えている。

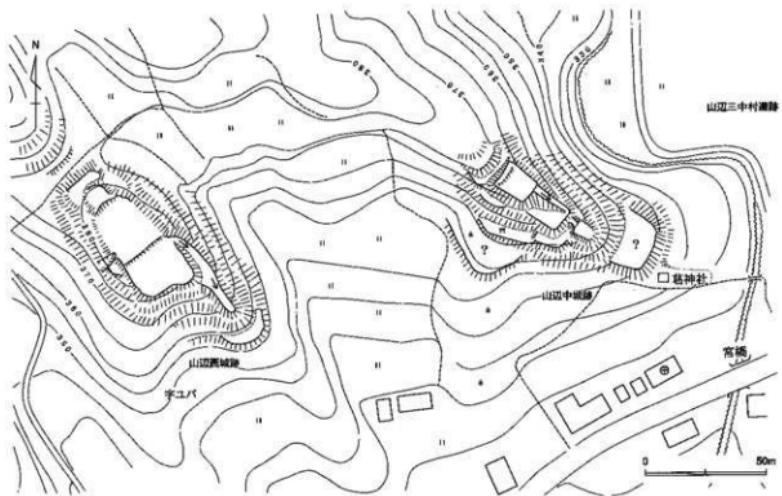


図9 山辺西城跡・山辺中城跡縄張図

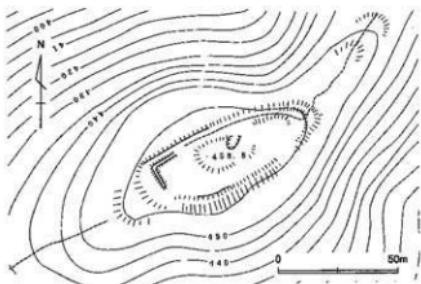


図10 山辺新城跡縄張図

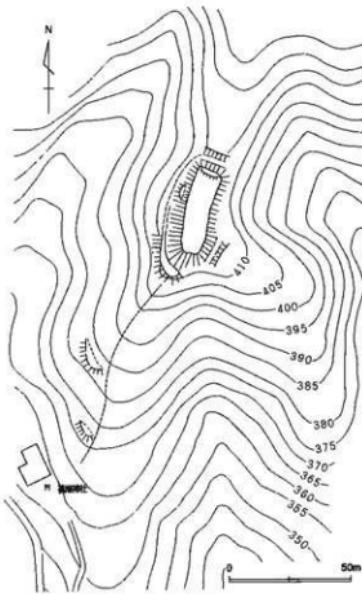


図11 山辺篠畠城跡縄張図

## 5 抄 錄

遺 跡 名	山辺三中村遺跡 <株原町遺跡地図番号 3-8、奈良県遺跡地図番号 103-36>
調 査 地	奈良県宇陀郡株原町大字山辺三1728番地<小字名：井ドノウエ>
測 量 調 査	標高約330~335mの尾根先端緩斜面
種 別	縄文時代~古墳時代、平安時代~中世の遺物散布地、中世の居館跡？
調 査 主 体	株原町教育委員会
調 査 原 因	個人住宅建設工事（事業者：石田歯）
現地調査期間	2003年（平成15）3月11日
調 査 面 積	21m <sup>2</sup>
検 出 遺 構	土坑
検 出 遺 物	須恵器、土師器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器 <整理箱 1箱>
資料等の保管	株原町教育委員会（文化財整理室）
調査後の措置	工事実施

### 参考文献

- 柳澤一宏 2001 『株原町内遺跡発掘調査概要報告書』1999年度 株原町文化財調査概要22 株原町教育委員会  
松本洋明 1988 『十六面・薬王寺遺跡』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第54号 奈良県立橿原考古学研究所  
積山 洋 1999 『大坂の土師質土器』『関西近世考古学研究』Ⅳ 関西近世考古学研究会

### 挿図出典

図9~11 村田修三 1980 「奈良県」『日本城郭大系』第10巻 新人物往来社 (一部、改変)

表3 山辺三中村遺跡（2次調査）出土器観察表

検出番号	器種	量 (cm)	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴		色調・胎土・地成	備考
					体部内面に円柱状文。体部外面に落子ふき印文。	外底		
8-1	環底器	現存高			色調 外底 胎土 地成	内面 青灰色 (5G 5/1) 暗赤灰褐色 (5FB 4/1)	青灰色 (5G 5/1)	青灰色 (5G 5/1)
8-2	土鍋器	復元口径 現存高	8.8 1.7	口縁部はやや膨脹気味に上方に 伸び、口縁端部をない。	色調 外底 胎土 地成	内面 浅青褐色 (7SYR 8/4) 外底 浅青褐色 (7SYR 8/3)	浅青褐色 (7SYR 8/4)	青灰色 (5G 5/1)
8-3	土鍋器	現存高	3.8	口縁部が弧形斜め上からへり、 内面下半は丸みを帯びて、その他の内外面ともヨコナデ。	色調 外底 胎土 地成	内面 に青い黒褐色 (10YR 6/4) 外底 に青い黒褐色 (10YR 6/4)	青灰色 (5G 5/1)	青灰色 (5G 5/1)
8-4	瓦器	現存高	2.7	口縁端部には比較を施す。	色調 外底 胎土 地成	内面 灰白色 (10YR 7/1) 外底 灰白色 (10YR 7/1)	灰白色 (10YR 7/1)	灰白色 (10YR 7/1)
8-5	瓦器	現存高	1.6	口縁部は丸みを帯びて、外側に 内面下部は三角形の突出部を めぐらす。	色調 外底 胎土 地成	内面 灰褐色 (5YR 8/1) 外底 灰褐色 (N 4/4)	灰褐色 (5YR 8/1)	灰褐色 (5YR 8/1)
8-6	陶器	現存高	2.0	口縁端部は三角形を呈する。	色調 外底 胎土 地成	内面 灰白色 (5Y 7/1) 外底 灰白色 (N 5/5)	灰白色 (5Y 7/1)	灰白色 (5Y 7/1)
8-7	土鍋器	現存高	1.8	口縁部を上方へややくぼみあわせ、 外側に切欠きをつくる。外側に 浅い黒褐色をぐらせ。	色調 外底 胎土 地成	内面 に青い黒褐色 (10YR 7/4) 外底 に青い黒褐色 (7SYR 5/3)	青い黒褐色 (10YR 7/4)	青い黒褐色 (10YR 7/4)
8-8	土鍋質土器 鉢(火休)	現存高	1.3	円形容の底部外面に落粘約3cmの短 い脚と脚座に付する(復元)。	色調 外底 胎土 地成	内面 褐灰色 (7SYR 4/1) 外底 灰褐色 (7SYR 4/1)	褐灰色 (7SYR 4/1)	褐灰色 (7SYR 4/1)
8-9	瓦器	現存高	2.7	口縁端部には比較を施す。	色調 外底 胎土 地成	内面 灰褐色 (N 5/5) 外底 灰褐色 (N 5/5)	灰褐色 (N 5/5)	灰褐色 (N 5/5)
8-10	陶器 (無蓋圓筒形)	復元口径 現存高	9.8 2.3	口縁部はやや内側が狭く上方に 伸び、口縁端部を大きくおむる。	色調 外底 胎土 地成	内面 に青い黒褐色 (5YR 6/4) 外底 灰褐色 (5YR 6/4)	青い黒褐色 (5YR 6/4)	青い黒褐色 (5YR 6/4)
8-11	瓦器	現存高		口縁部は内側が狭く上方に 伸び、口縁端部を大きくおむる。	色調 外底 胎土 地成	内面 明オリーブ灰色 (25G Y 7/1) 外底 明オリーブ灰色 (25G Y 7/1)	明オリーブ灰色 (25G Y 7/1)	明オリーブ灰色 (25G Y 7/1)

## IV 清水谷遺跡第1次発掘調査概要

### 1 調査の契機と経過

清水谷遺跡は、弥生時代～古墳時代・中世の遺物散布地として奈良県遺跡地図番号地図番号12-D-9、橿原町遺跡地図番号1-21として登載しているところである（図12）。この遺跡の範囲としている東南端部分において、個人住宅の新築工事が計画され、2002年（平成14）2月に埋蔵文化財発掘届が提出された。その後、関係機関等が遺跡の取り扱い・発掘調査の実施方法等を協議した結果、橿原町教育委員会において調査を担当することとなった。

現地調査は、工事の都合上、若干の制約があったものの、2002年（平成14）11月1日と11月7日に行なった。

### 2 位置と環境

清水谷遺跡は、鳥見山中腹から南東へと流れる町並川によって形成された谷の中流域にあり、谷地形は、そのまま、橿原の市街地が広がる南東方向へと下っている。

この遺跡を含む周辺の遺物散布地としている遺跡は、過去に未調査のまま住宅地や道路等に姿を変え、



図12 清水谷遺跡位置図（橿原町遺跡地図）

旧形を留めていないところが少なくない(図13、図版4)。各遺跡とも未調査のため、遺跡の範囲等が明確でなく、地形と遺物の散布状況によってその範囲を推定している状況である。

### 3 遺跡の調査

#### (1) 調査区と基本層序(図14・15、図版5)

工事予定地(敷地面積:約280m<sup>2</sup>、建築面積:約71m<sup>2</sup>)のうち、建物建設予定地内の1箇所にトレーナーを設定し、遺構・遺物の検出につとめた。

基本層序は、第1層が整地土、第2層が旧水田耕作土と思われる灰黄褐色粘土、第3層が砂礫を多く含んでいる灰色粘質土となっている。第3層の掘り下げを行ったが、硬く結まっており、遺物も認められないこと、既に建物基礎工事が開始されていたこと、建物基礎が深くないことなどから調査範囲を小規模にとどめている。

#### (2) 検出遺構

明確な遺構は認められない。

#### (3) 出土遺物

明確な遺物は認められない。

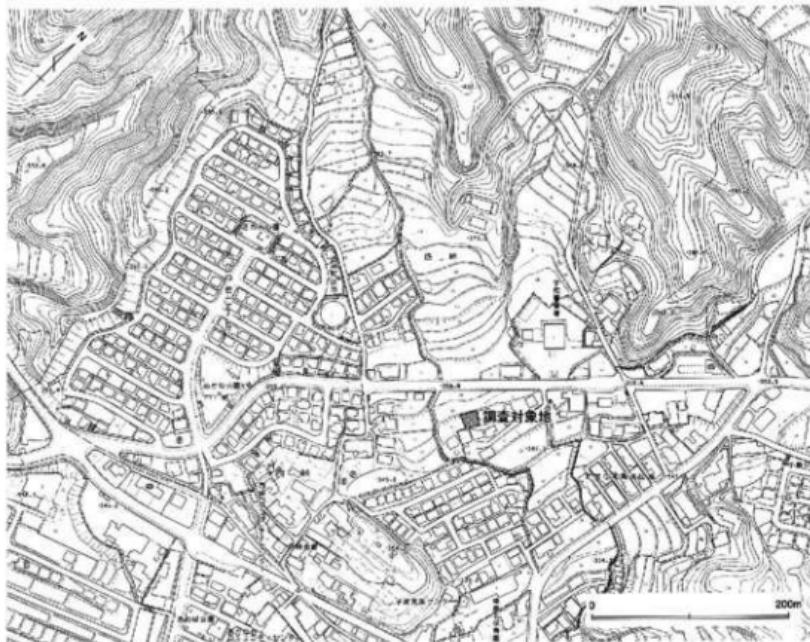


図13 清水谷遺跡(1次調査)調査位置図(1)

## 4 ま と め

若干、工事先行となっていたが、幸い、明確な遺構・遺物を検出しなかったので、小規模な調査にとどめることができた。第3層砂礫を多く含む灰色粘質土は、町並川によってもたらされた堆積土（氾濫層）と推定される。第3層下の遺物包含層の有無は明らかにできないが、調査地は町並川によって形成された谷中心部に相当することから遺構が存在する可能性は低いと思われる。

谷の南北両側には、尾根が延び、また埋没していると推定され、この尾根部分の高地に当遺跡の居住

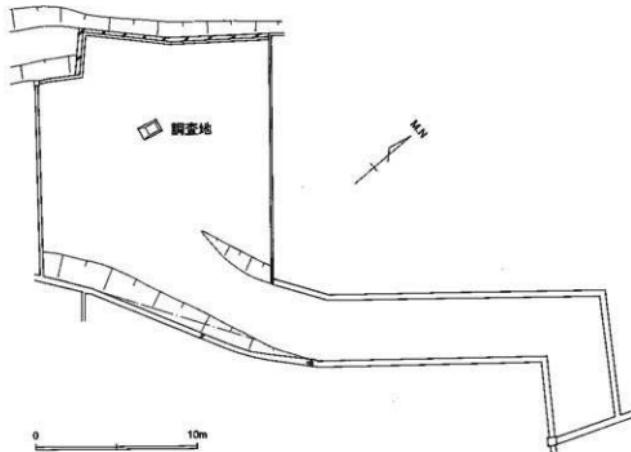


図14 清水谷遺跡（1次調査）調査位置図（2）

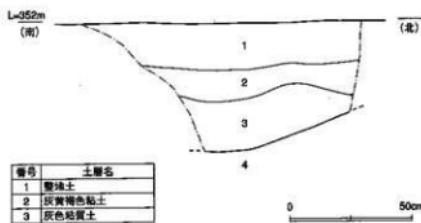


図15 清水谷遺跡（1次調査）土層断面図

域が広がっているものと思われる。この遺跡の発掘調査は端緒についたばかりで、遺跡全体の様相は、まだ明らかにできない。隣接する萩原薬師田遺跡（2002年調査、本書所収）とともに、今後の調査等に期するところが大きい。

## 5 抄 錄

遺 跡 名	清水谷遺跡 <株原町遺跡地図番号 1-21、奈良県遺跡地図番号 12-D-9>
調 査 地	奈良県宇陀郡株原町大字萩原 元玉小西2014-4番地 <小字名：八重切>
測 量 調 査	標高約350~400mの谷
種 別	弥生時代～古墳時代・中世の遺物散布地
調 査 主 体	株原町教育委員会
調 査 原 因	個人住宅建設工事（事業者：松藤成志）
現地調査期間	2002年（平成14）11月1日、11月7日
調 査 面 積	1 m <sup>2</sup>
検 出 遺 構	なし
検 出 遺 物	なし
資料等の保管	株原町教育委員会（文化財整理室）
調査後の措置	工事実施

## V 下城・馬場遺跡第8次発掘調査概要

### 1 調査の契機と経過

下城・馬場遺跡は奈良県宇陀郡榛原町大字沢に位置し、沢城跡から南方へ派生する尾根筋とその間を流れる小支流によって形成された小規模な谷地形の先端部の一角を占めている。古くから澤城の下城といわれ、現在も小字名に「下城」や「馬場」などといった呼称が残っている(図版6)。

1984年度には「沢集落センター」建設に伴う発掘調査(1次調査)を行い、純文時代～弥生時代、中世(12世紀～13世紀)の遺構・遺物を検出している。その後、遺跡高所の平坦面において個人による土地改良工事が計画されたため、1993年度に2次調査、1994年度に3次調査、1997年度に4次調査を実施し、15世紀～16世紀の礎石建物等の遺構をはじめ、多くに遺物を検出し、中世の館跡の一端を明らかにできた。

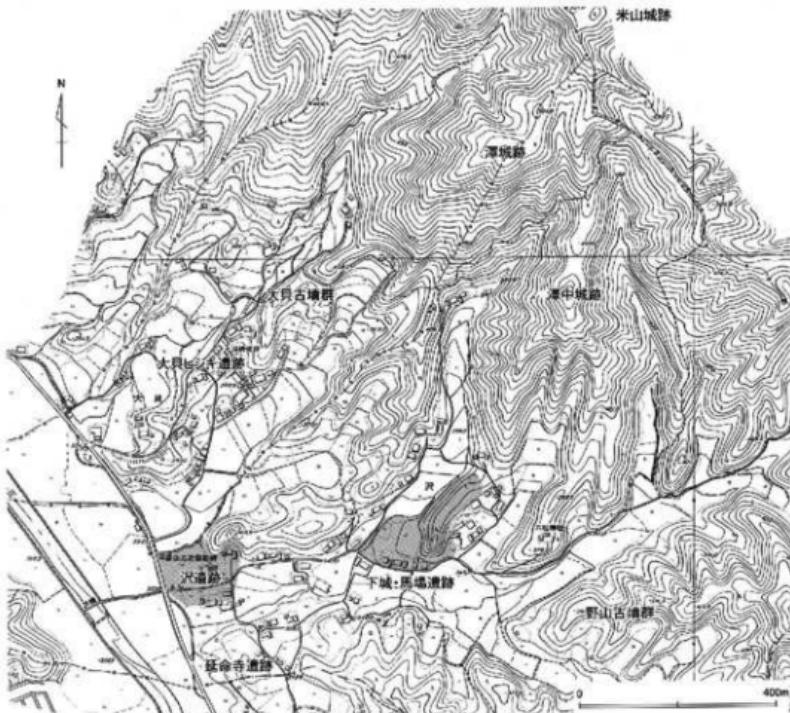


図16 下城・馬場遺跡位置図

これらの発掘調査によって、下城・馬場遺跡は、宇陀地域における有力中世武士団のひとりである「澤氏」の城館跡（居館跡）であることが明らかとなったことから、さらにその状況等を解明する範囲確認調査を計画し、1998年度に地形測量等（5次調査）、1999年度には、遺跡南西隅部分の遺構・遺物の状況を明らかにする6次調査を実施し、2000年度には、6次調査地の北隣において7次調査を継続し、あわせて東尾根の地形測量も行った。

8次調査は、2～4次調査地北側の遺構の有無などを明らかにすることを目的とし、現地調査を発掘調査（現地調査）は2002年（平成14年）2月13日～10月4日にかけて断続的に行なった（図17）。

## 2 位置と環境

下城・馬場遺跡は、尾根稜線から西斜面、標高約339m～370mの一角を占めており、芳野川が流れる西方への眺望が比較的良好で、遠く、宇陀地域の代表的な中世山城である秋山城跡を望むことができる。

また、北方には沢城跡や伊那佐山を仰ぎ見ることができる。下城・馬場遺跡の中心は尾根の西斜面に広がり、4段にわたる平坦面が形成されている。遺跡の現状は大半が畠地や水田、山林、遺跡周縁部は宅地となっている。

この遺跡の周辺は縄文時代～中世の沢遺跡、弥生時代～中世の延命寺遺跡、古墳時代前期の戸石・辰巳前遺跡や古墳時代前期～後期の野山古墳群などの遺跡が集中している地域でもある。

## 3 遺跡の調査

今回の発掘調査では、5時期の遺構面（生活面）を検出しておらず、上から順に近代遺構面 第1遺構面、第2遺構面、第3遺構面、第4遺構面と呼称しておく（図18、図版7～9）。

### （1）近代遺構面

館が廃絶した江戸時代（17世紀以降）のものである。北斜面を掘削して、整地作業を行い、畑としての利用がはじまった頃である。東西の素掘溝は、畑の境界を示すものである。

今回、あわせて「下城の井戸」の位置を再確認する目的で、一部、調査範囲を拡張したが、畑の境界溝より新しいことがわかった。なお、井戸内の掘り下げを行っていないため、詳細な構築年代は明らかにできない。

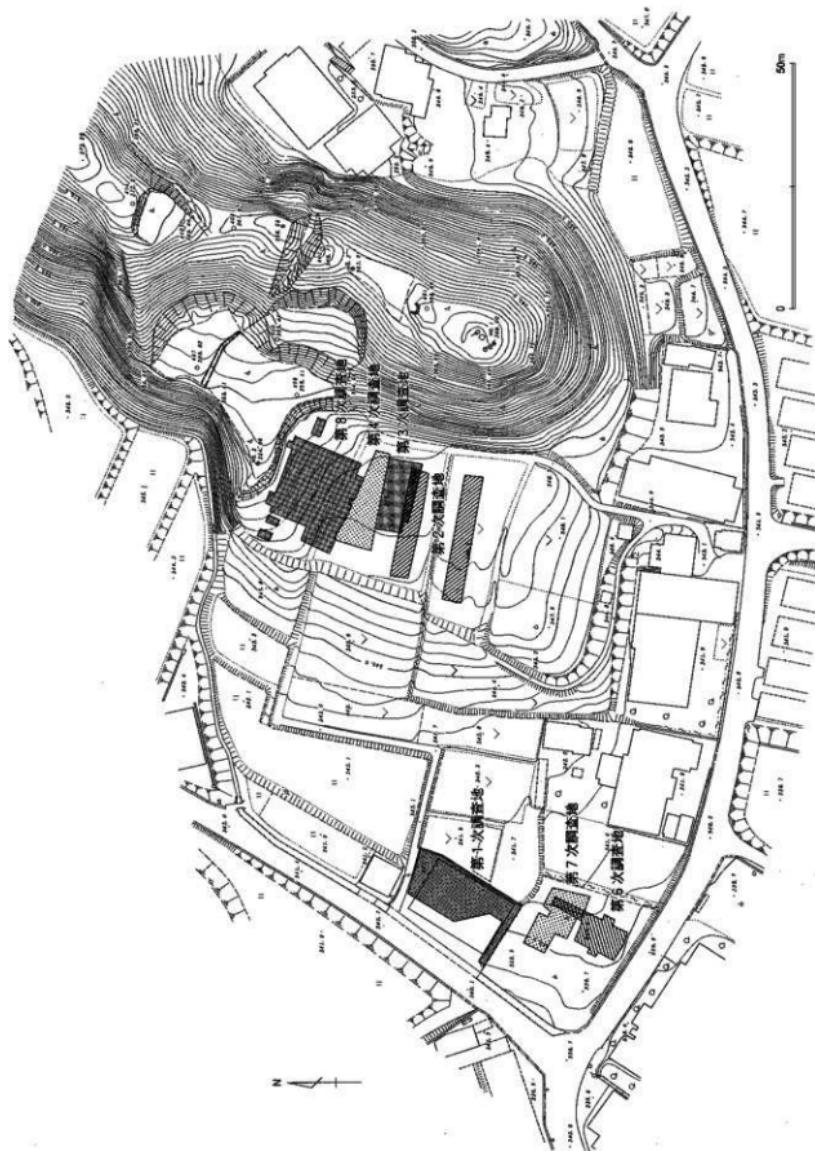
### （2）第1遺構面

土坑、ピット、溝を検出しているが、建物の有無は明確でない。16世紀後葉と考えられる。

### （3）第2遺構面

本調査地南側（2次～4次調査地）で検出している礎石建物は、1間=6尺5寸（約1.97m）を基準として造られており、今回検出した礎石建物とともに機能していたと考えられる。南側（2次～4次調査地）の礎石建物の屋根には、瓦が用いられていたとも考えられ、この館の中心的な建物だったと思われる。16世紀には焼失し、その機能を終えている。

図17 下城・馬場埋設調查位置図



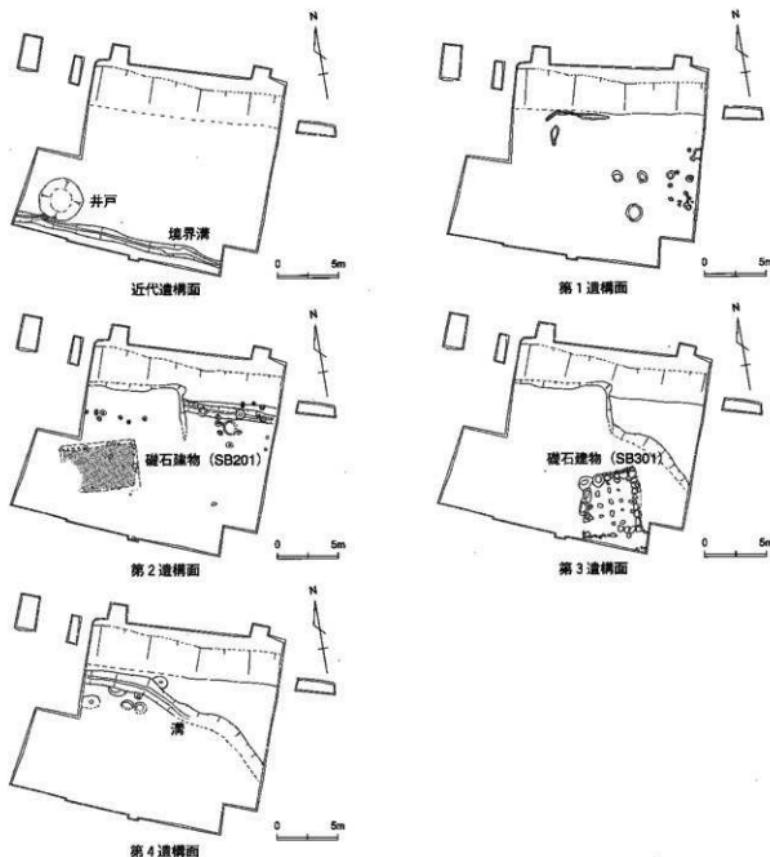


図18 下城・馬場遺跡（8次調査）主要遺構略測図

今回は、小さな川原石を敷きつめ、周囲に小石の列石をめぐらした礎石建物1棟（SB201）、土坑、ピット、溝等を検出している。東西約5.9m、南北約3.9mの規模で、1間=6尺5寸（約1.97m）を基準として造られた2間×3間の建物である。建物の詳細な性格は明らかでないが、倉庫の可能性が考えられる。周辺からは、瓦の出土ではなく、焼失の痕跡も認められない。この建物の背後（北側）には横列の存在も考えられる。

#### （4）第3遺構面

大きな礎石を使った礎石建物1棟（SB301）を検出している。西側半分は、石材が抜き取られているが、東西約4.2m、南北約4.5mの規模である。1間=7尺（約2.12m）を基準として造られた2間×2間の建物である。この建物の礎石や地面は、よく焼けていることから、焼失していることが明らかである。炭や焼けた壁土、米等が出土していることから「米蔵」だったと考えられる。出土遺物から焼失時期は14世紀中葉から15世紀と考えられる。

2次～4次調査でも比較的大きな礎石を用いた礎石建物を検出しているが、上面（第2遺構面）の礎石建物等の遺構を保存しているため、詳しい建物配置は明らかにできない。第2遺構面同様、礎石建物群が広がるものと推定される。

#### （5）第4遺構面

第3遺構面の礎石建物の下層にさらに建物等の遺構の存在が予想されるが、この礎石建物を残すため、下層の発掘調査は実施していない。詳しい建物の配置状況は、明らかにできないが、土坑、堀状の溝を検出している。土坑は14世紀前葉、溝はそれ以降のものである。

## 4 ま と め

2～4次調査、そして今回の8次調査によって、2時期にわたって、建物が焼失していることが判明した。

『満済准后日記』正長2年（1429年）2月24日条によると「衆徒国民等、宇多の處へ責め入る。澤・秋山一矢に及ばず、自焼せしめ没落す。」とあり、澤・秋山の両氏が興福寺勢力に攻められ、自焼没落していることがわかる。「自焼」とは、「自らが家などの建物を焼く」という風習で、ある種の作法といわれている。「没落」とは、「城などの建物が敵に奪われる」、あるいは、「建物を維持できなくなったため、それまでの拠点を離れる」といった意味といわれている。

この時に焼失した建物の一部が今回の発掘調査で検出した第3遺構面の礎石建物（SB301）の可能性も考えられる。第3遺構面の焼失建物遺構等が正長2年（1429年）の自焼没落にともなうものとする、第2遺構面の焼失建物等は、永禄3年（1560年）～永禄10年（1567年）の澤氏と高山氏らとの争いの頃とも考えられる。

当遺跡は、12世紀～16世紀には、澤氏の城館としてその機能を果たしてきたことが明らかとなりつつあるが、遺物整理等の調査成果が整理途上のため、遺構の詳細な時期等については、今後、若干の修正が必要となる場合があることを付記しておく。

## 5 抄 錄

遺 跡 名	下城・馬場遺跡（奈良県遺跡地図番号15-D-90、榛原町遺跡地図番号2-546）
調 査 地	奈良県宇陀郡榛原町大字沢1288、1292番地（小字名：下城）
遺 跡 立 地	標高約339m～370mの尾根稜線・斜面、谷部分
遺 跡 規 模	南北：約200m、東西：約200m
種 別	縄文時代・弥生時代・古墳時代・中世の遺物散布地、中世の居館跡
調 査 主 体	榛原町教育委員会
調 査 担 当 者	榛原町教育委員会 生涯学習課 主任 柳澤一宏
調 査 原 因	範囲確認調査（事業主体：榛原町教育委員会）
現地調査期間	2002年（平成14）2月13日～同年10月4日
調 査 面 積	285m <sup>2</sup>
検 出 遺 様	礎石建物跡、土坑、ピット、溝、カット面
検 出 遺 物	サヌカイト、須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、青磁、鐵刀、鐵釘、 鐵滓、鉛玉、砥石、地輪、硯、碁石、錢貨（元豊通宝、寛永通宝）、瓦、壁土、炭化 物他
資料等の保管	榛原町教育委員会（文化財整理室）
調査後の措置	保存（埋め戻し）

## VI 萩原薬師田遺跡第1次発掘調査概要

### 1 調査の契機と経過

萩原薬師田遺跡は、小規模ではあるが、中世の遺物散布地として奈良県遺跡地図番号12-D-60、株原町遺跡地図番号1-20として登載しているところである（図19）。

遺跡中央部分の水田において、個人住宅の新築工事が計画され、2002年（平成14年）2月には埋蔵文化財発掘届が提出された。関係機関等が遺跡の取扱い・発掘調査の実施方法等を協議した結果、株原町教育委員会において調査を担当することとなった。

現地調査は、2002年4月30日から同年5月9日まで行い、同年9月9日まで、断続的に周辺地形等の測量、工事立会を行った。

なお、遺跡名は、大字名と調査地周辺の通称名とを用いて「萩原薬師田遺跡」とした。

### 2 位置と環境

萩原薬師田遺跡は、鳥見山から南へ派生する一尾根上にあり、南方の眼下には、株原の市街地や宇陀川流域を見渡せせる。東隣の谷部分には、弥生時代～古墳時代、中世の遺物散布地である清水谷遺跡が広がる。遺跡の現状は、尾根を削平して形成された水田となっている（図20、図版10）。



図19 萩原薬師田遺跡位置図（株原町遺跡地図）

### 3 遺跡の調査

#### (1) 調査区と基本層序 (図21・22、図版11~14)

工事予定地（面積：約504m<sup>2</sup>）のうち、建物建設予定地内の2箇所にトレンチを設定し、遺構・遺物の検出につとめた。なお、西側のトレンチを第1トレンチ、東側のトレンチを第2トレンチと呼称する。

##### 第1トレンチ

基本層序は、第1層が耕作土（灰色粘土）、第2層が水田床土（明褐色粘土）、第3層が暗褐色粘土、第4層が黒色粘土、第5層が褐色粘土、第6層が地山（明褐色粘質土）となっている。

##### 第2トレンチ

基本層序は、第1層が耕作土（灰色粘土）、第2層が水田床土（明褐色粘土）、第3層が整地土（暗褐色土他）、第4層が黒色粘土、そして明褐色粘質土の地山となっている。

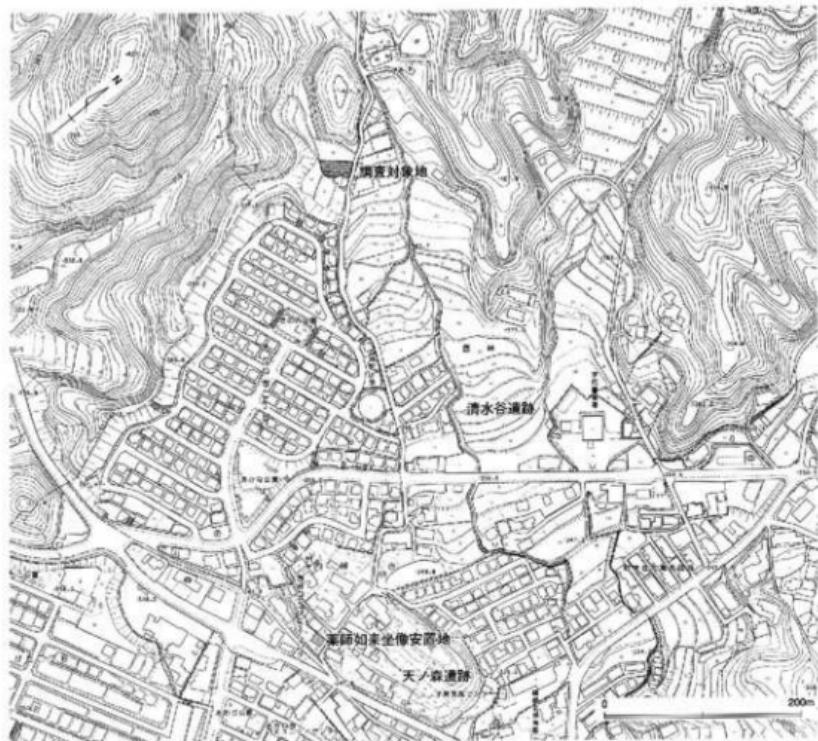


図20 萩原薬師田遺跡（第1次）調査位置図（1）

(2) 検出遺構 (図23、図版12・14)

第1トレンチ

上層では、第3層・第4層を穿っている土坑やピットを検出している。出土遺物は細片が多く、明確な時期を明らかにできないが、中世の範疇で捉えられるものである。下層では地山面が北から南へと緩やかに傾斜しているが、地山面には、遺構は認められない。

第2トレンチ

第4層下、地山を穿ったピットを土層断面で確認している。工期との都合上、地山面を全面にわたって検出していないが、他の遺構は認められない。第1トレンチ同様、地山面は、北から南へ緩やかに傾斜している。

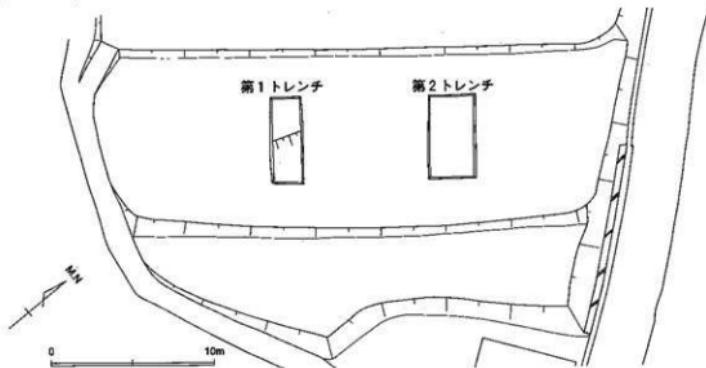


図21 萩原薬師田遺跡（第1次）調査位置図（2）

第1トレンチ

L=400.5m

(北)

(南)

0 10 2m

番号	土層名	土色No.
1	耕作土(第1層)	<7.5YR 4/1>
2	水田底土(第2層)	<7.5YR 5/8>
3	砂地土	
4	黒褐色粘土(ピット)	<10YR 2/3>
5	暗褐色粘土(2-3層)	<10YR 3/3>
6	暗褐色粘土(第3層)	<7.5YR 3/3>
7	黒色粘土(奥4層)	<7.5YR 2/1>
8	褐色粘土(第5層)	<7.5YR 4/3>
9	暗褐色粘土(2-3層)	<7.5YR 3/3>
10	明褐色粘土(3-4層)	<7.5YR 5/6>

第2トレンチ

L=400.5m

(北)

(南)

0 10 2m

図22 萩原薬師田遺跡（第1次）土層断面図

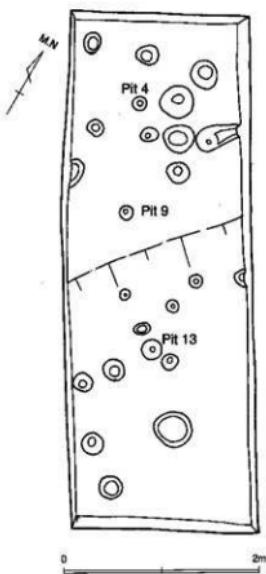


図23 萩原薬師田遺跡（第1次）第1トレンチ遺構平面図

### （3）出土遺物（図24～27、図版15～18）

第1トレンチの土坑、ピットから中世土器の細片が出土した他、第4層から12世紀中葉から後葉の瓦器碗、土師皿、土釜等、第5層から6世紀初頭の須恵器壺・壺・壺等が出土した。須恵器には、窯壁に須恵器等が溶着したものも認められる。また、工事立会によって多くの瓦器碗等を採集している。法量等の詳細は表4にまとめている。

#### 1 遺構出土遺物（図24-1～3、表4）

土師器皿（1）の口縁部は外上方へ短くのび、口縁端部は丸い。底部は平底に仕上げる。Pit 9 出土。

青磁壺（2）は口縁部片で、外反して上方にのびる。口縁端部を欠く。Pit 4 出土。

瓦器皿（3）の口縁部は、やや外反気味、底部は丸底に仕上げる。内面には粗い平行線状暗文を施す。

#### 2 包含層出土遺物（図24-4～図27、表4）

##### 須恵器

杯蓋（4）の口縁部と天井部とをわける稜は、やや丸く、口縁端部は内傾する凹面をもつ。第1トレンチ第4層出土。

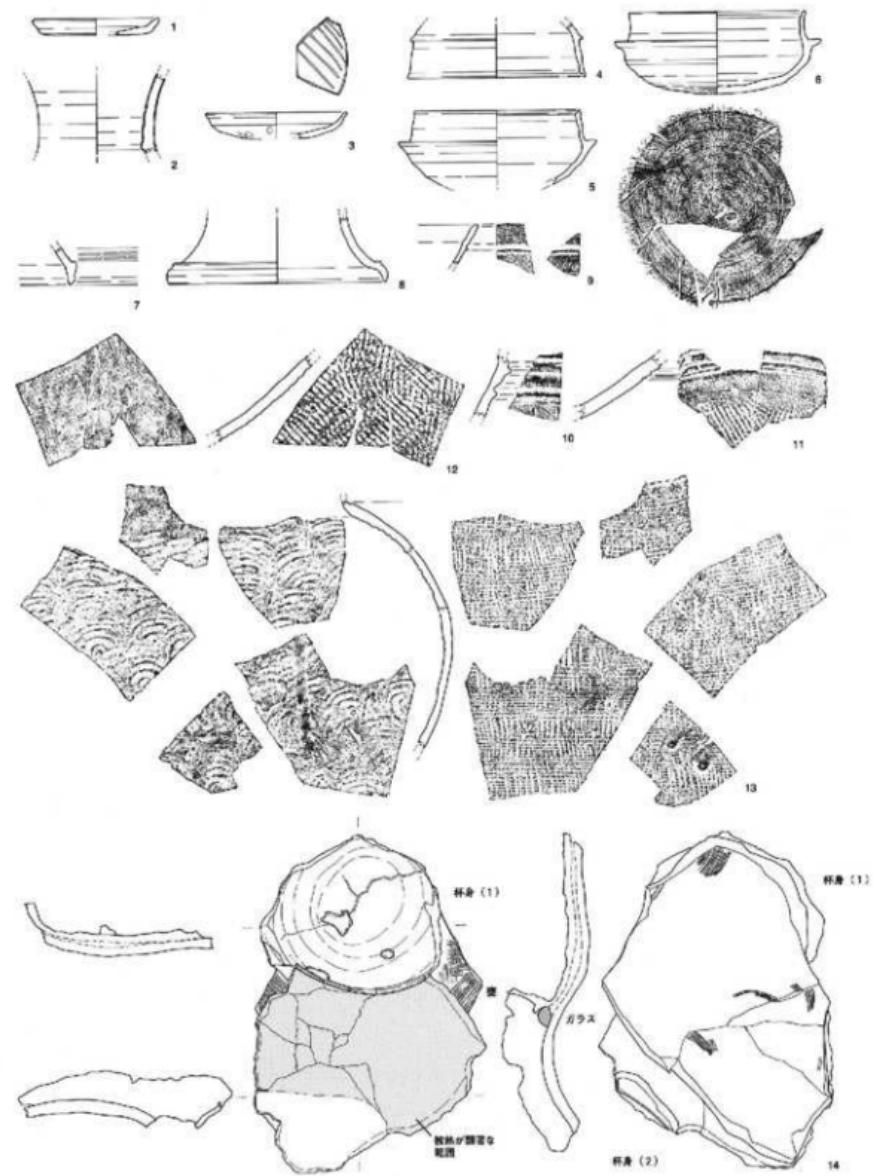


図24 萩原薬師田遺跡（第1次）出土土器実測図（1）

杯身（5）の口縁部は直線的に内上方へのび、口縁端部は内傾する凹面をもつ。（6）の口縁部は外反氣味に上方へのび、口縁端部内側には凹線をめぐらせる。底部は丸い。いずれも第1トレンチ第5層出土。

高杯（7）の脚端部は外側を玉縁状に肥厚させ、その端部は尖り気味につくる。脚部外面にはカキ目を施す。第1トレンチ第4層出土。（8）の脚部は外反させながら開いたのち、脚端部を内彎させ、外面に幅広の凹線1条をめぐらせる。第1トレンチ第5層出土。

壺（9）の口縁部は直線的に外上方へのび、口縁端部は丸い。外面には凹線を施し、その下部には稜をめぐらせる。また、稜の下方には3条1單位の櫛描波状文を施す。（15）の口縁部は直線的に外方へのび、上半は外方へ屈曲する。いずれも第1トレンチ第5層出土。

壺（10）の口縁端部外面には、断面形態が三角形を呈する突帯と凹線をめぐらせる。外面下半には6条1單位の櫛描波状文を施す。（12）の内面は同心円文をナデ消し、外面に格子ふう叩き目文を施す。（13）は細片を図上復元している。内面の上端はナデ、その他は同心円文、外面は平行叩き目文の上に横方向のカキ目を施す。（10）、（12）は第1トレンチ第4層出土。（13）は第1トレンチ第5層出土。

器台（11）の杯部は、やや内彎気味に外上方へのび、端部下方には2条の凹線を施す。外面下半には格子ふう叩き目文を施す。第1トレンチ1・2層と第5層出土の破片が接合できた。

蒸壁片（14）には須恵器杯身片2点、壺体部片、青色のガラス片が溶着している。杯身の口縁端部は

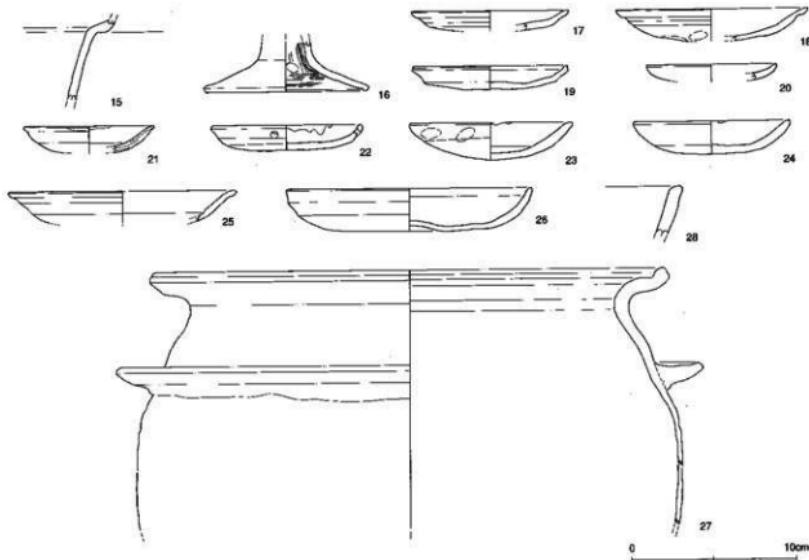


図25 萩原薬師田遺跡（第1次）出土土器実測図（2）

内傾する凹面をもつ。臺の内面は細かい同心円文、外面は格子ふう叩き目文を施す。杯身は先掲の(5)・(6)と同時期のものである。第1トレンチ第4層出土。

#### 土師器

高杯(16)は中空の脚部で、柱状部と裾部との間に明瞭な屈曲部をつくらずにだらかに広がる。内面には絞り痕、下半には横向方向のハケ目が認められる。第1トレンチ第4層出土。

皿(17)の口縁端部はやや外反する。(19)の口縁部はやや外反気味に外上方へびる。口縁端部を上方へ屈曲させ、尖り気味につくる。(20)の口縁部は内彎気味に外上方へびり、端部は丸い。これらは

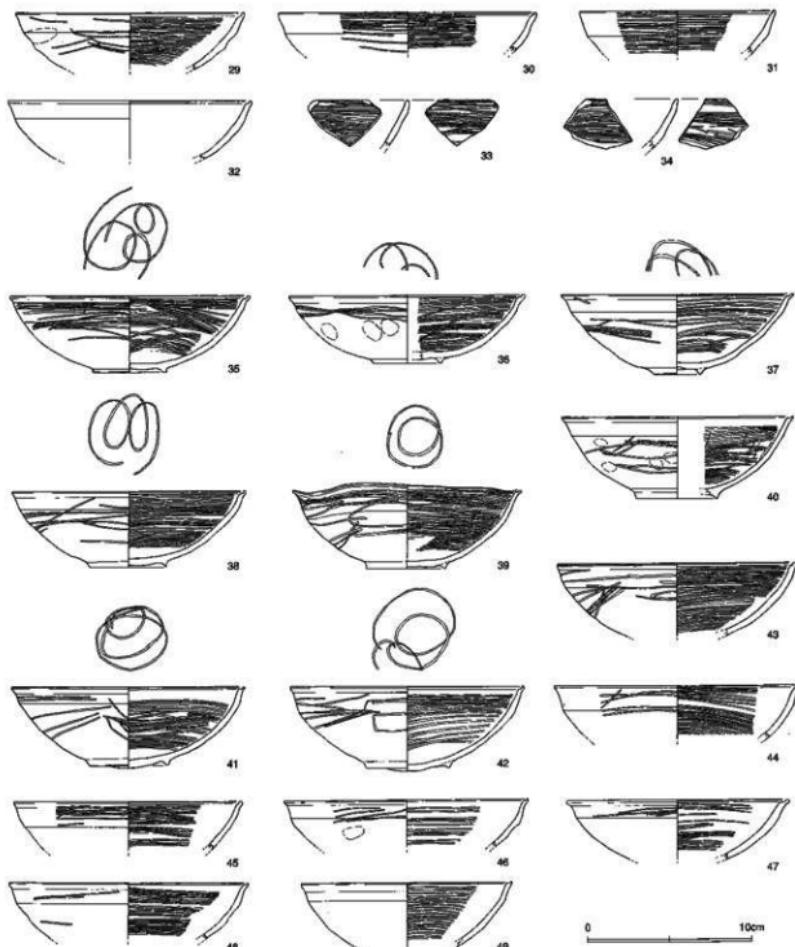


図26 萩原薬師田遺跡（第1次）出土土器実測図（3）

工事立会（第3層）出土。

(25) の復元口径は14cmである。口縁部は外上方へのび、口縁端部をやや外反させ、尖り気味につくる。第2トレンチ第3層出土。(26) の復元口径は15.1cmである。口縁部はやや内擣気味に外上方へのび、端部は丸い。底部は中央が窪む。工事立会（第3層）出土。

灯明皿（18）は口縁端部を外反させ、尖り気味につくる。(21) の口縁部は内擣気味に外上方へのびる。端部をやや外反させ、尖り気味につくる。(22) の口縁部は内擣気味に外上方へのび、端部は丸い。口縁部の1箇所に径2mmの丸孔を穿つ。(23) の口縁端部はやや肥厚し、丸い。底部は丸底につくる。第2トレンチ第3層出土。(24) の口縁部はやや内擣気味に外上方へのび、端部は丸い。(21) は第1トレンチ第4層出土、(18)・(23)・(24) は第2トレンチ第3層出土、(22) は工事立会（第3層）出土。

<sup>20)</sup> 土釜（27）は広口型で大和B型に分類できる。口縁部は外反して外方にのび、口縁端部は上方へ屈曲する。口縁端部は丸くおさめ、外面には1条の浅い凹線が認められる。胴部上半には鉢を貼り付ける。工事立会（第3層）出土。

#### 瓦質土器

鉢（28）の口縁端部は面取りを行い、断面形態を方形につくる。第2トレンチ第1～2層出土。

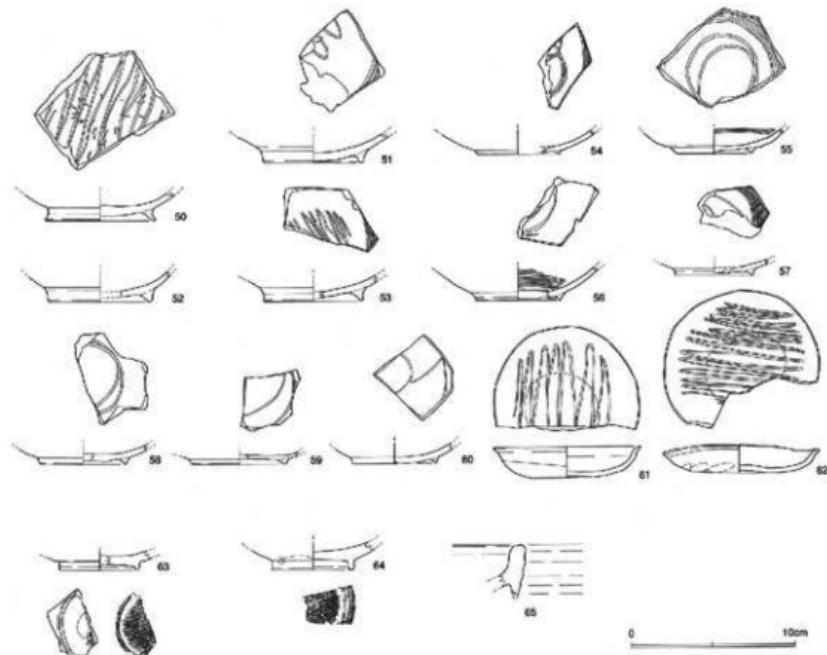


図27 萩原薬師田遺跡（第1次）出土土器実測図（4）

### 瓦器

椀 (29)・(30)・(31) の口縁端部には沈線、内外面には横方向の暗文を施す。(29) が工事立会（第3層）、(30)・(31) が第1トレンチ第4層出土。

(33)・(34) の口縁端部は丸くおさめ、沈線を施さない。内外面とも横方向の暗文を施す。いずれも第2トレンチ第4層出土。

(35)～(49) の口縁端部は外反し、ここに沈線を施す。内面には横方向の暗文、外面には粗い横方向の暗文を施す。(35)・(36)・(37)・(38) の見込みには連結輪状暗文を施す。(35)・(36) の高台の断面形態は逆台形、(37)・(38) は逆三角形を呈する。(39) の見込みには同心円状暗文を施す。高台の断面形態は逆三角形を呈する。(40) の高台は肥厚し断面形態は逆三角形を呈する。(41)・(42) の底部は高台端より下方に突出する。見込みには同心円状暗文を施す。(35)～(45)、(47)、(48) が工事立会（第3層）、(46)、(49) が第1トレンチ第3層出土。

(50)～(60) は底部片である。(50) の高台は外彎状に開き、見込みには粗い平行線状暗文を施す。(51) の高台は厚みがあり、断面形態は逆三角形を呈する。(52)～(60) の高台の断面形態は逆三角形を呈し、(53) の見込みには平行線状暗文、(54) は連結輪状暗文、(55)～(60) は同心円状暗文を施す。

(51)～(54) が第1トレンチ第4層出土、(50) が第2トレンチ第4層出土、(55)～(60) が工事立会（第3層）出土。

皿 (61)・(62) の口縁部はやや外反気味に外上方へのび、底部は中央がやや窪む。見込みには平行線状暗文を施す。いずれも工事立会（第3層）出土。

### 陶器（京焼風陶器）

平碗 (63)・(64) の高台はやや外傾し、断面形態は方形を呈する。高台はケズリ出しでつくる。(63) の底部外面中央に「清水」の印銘が認められる。いずれも第2トレンチ第1～2層出土。

鉢 (65) は口縁端部を上方へ屈曲させ、外側を玉縁状につくる。端部は面取りが行われ、方形につくる。瀬戸系摺鉢と思われる。第2トレンチ第1～2層出土。

## 4 ま と め

いくつかのピット、土坑を検出したものの、調査範囲が狭隘であったため、これら遺構の全体像を把握するまでには至らなかった。しかし、当初の予想に反して、第5層から須恵器等、第4層から瓦器椀、土師皿等が比較的まとまって出土した。

須恵器は、田辺編年のTK-47型式、中村編年のI型式5段階に比定でき、6世紀初頭と考えられる。須恵器のなかには、窯壁に須恵器片等が溶着したもの（図24-14）が認められ、調査地周辺において須恵器窯の存在も推定されるところである。遺物包含層並びに遺構面において、焼土面や灰原の確認にも留意したが、これを明らかにすることことができなかった。地形及び遺物の出土状況等から12世紀後葉までに尾根が大きく削平されたと考えられるが、須恵器窯の存在を推定できる資料を得ることができたことはひとつの成果といえよう。

瓦器椀・皿は、川越編年の第Ⅳ段階A型式、松本編年の井戸-20期に比定でき、12世紀後葉から13世紀前葉（12世紀第4四半期～13世紀第1四半期）と考えられる。

地元では、かつてこおのあたりに薬師堂があったとの伝承があり、ここに安置されていた仏像はふも

との西跡地区に移されたという。安置されていた仏像とは、現在、西跡区有となっている平安時代後期（12世紀中葉頃）<sup>〔註7〕</sup>の薬師如来坐像（図版18）と考えられ、奈良県指定文化財ともなっている。発掘調査で建物造構は確認できなかったが、仏像及び出土土器の年代、伝承等から調査地周辺には薬師堂があったとも推定される。

この遺跡の発掘調査は端緒についたばかりで、遺跡全体の様相は、まだ明らかにできない。隣接する清水谷遺跡とともに、今後の調査等に期するところが大きい。

## 5 抄 錄

遺 跡 名	橿原薬師寺遺跡 <橿原町遺跡地図番号1-20、奈良県遺跡地図番号12-D-60>
調 査 地	奈良県宇陀郡橿原町大字橿原 元玉小字2236番地 <小字名 垣内>
遺 跡 立 地	標高約390~405mの尾根斜面
遺 跡 規 模	南北約80m、東西約70m
種 別	古墳時代、中世の遺物散布地
調 査 主 体	橿原町教育委員会
調 査 原 因	個人住宅建設工事（事業者：上野元嗣、上野佳洋子）
現地調査期間	2002年（平成14）4月30日～同年9月9日（測量調査、工事立会含む）
調 査 面 積	25m <sup>2</sup>
検 出 遺 構	土坑、ピット
検 出 遺 物	須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、窯壁片 <整理箱 2箱>
資料等の保管	橿原町教育委員会（文化財整理室）
調査後の措置	工事実施

### 註

- 1) 普原正明 1983「畿内における土釜の製作と流通」『文化財論叢』 奈良国立文化財研究所
- 2) 田沼昭三 1981『須恵器大成』角川書店
- 3) 中村 浩 1987『陶邑』Ⅲ 大阪府文化財調査報告書第30輯 大阪府教育委員会
- 4) 川越俊一 1983「大和地方出土の瓦器をめぐる二、三の問題」『文化財論叢』 奈良国立文化財研究所
- 5) 松本洋明 1988「十六面・薬王寺遺跡」奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第54号 奈良県立橿原考古学研究所
- 6) 近江俊秀 1990「大和地方出土の瓦器輪とその生産について」『考古学論叢』14 奈良県立橿原考古学研究所
- 7) 奈良県教育委員会 1981「奈良県指定文化財」昭和55年度

表4 萩原美術師田遺跡（1次調査）出土土器観察表

検出番号	器種	法量(cm)	形態の特徴	技法の特徴	色調	地成	備考
24-1	土器器 黒	復元口径 7.8 器高 1.0	口縁部は外方にへきり、口縁部は丸い。底部は平底に少し上揚。	口縁部は外方にへきり、口縁部は丸い。底部は平底に少し上揚。	内面 断続青色(23Y 4/2) 外面 断続青色(23Y 4/2)	粘土 焼成 やや良	PtII土 焼存 1/5
24-2	青磁 盆	復元底部 7.4 現存高 5.0	口縁部は外側にして上方にのみ。	内外面と周縁部ナメ。	内面 オリーブ黄色(73Y 6/3) 外面 オリーブ灰色(73Y 6/2)	粘土 焼成 やや良	実測NO.29 PtII土
24-3	瓦器 盆	復元口径 8.8 現存高 1.0	口縁部は外方にへきり、底部は丸い。底部は丸い。	口縁部は外方にへきり、底部は丸い。底部は丸い。	内面 断続青色(23Y 6/2) 外面 断続青色(23Y 6/2)	粘土 焼成 やや良	実測NO.51 PtII土 焼存 1/5
24-4	瓦器 盆	復元口径 11.0 現存高 10.6	口縁部は外方にへきり、底部は丸い。底部は丸い。	口縁部は外方にへきり、底部は丸い。底部は丸い。	内面 断続青色(23Y 6/2) 外面 断続青色(23Y 6/2)	粘土 焼成 やや良	実測NO.33 PtII土 焼存 1/6
24-5	須恵器 杯身	復元口径 10.2 現存高 4.6	口縁部は直線的に内上方へのび、底部は直線部と内側する凹面を持つ。	底部は直線的に内上方へのび、底部は直線部と内側する凹面を持つ。	内面 断続青色(23Y 6/2) 外面 断続青色(23Y 6/2)	粘土 焼成 やや良	実測NO.14 PtII土 焼存 1/8
24-6	須恵器 杯身	復元口径 10.8 現元受容器 12.7 現存高 5.1	口縁部が灰青気味に上方へのび、底部は直線部と内側する凹面を持つ。底部は直線部と内側する凹面を持つ。	底部は直線部と内側する凹面を持つ。底部は直線部と内側する凹面を持つ。	内面 断続青色(23Y 6/2) 外面 断続青色(23Y 6/2)	粘土 焼成 やや良	実測NO.17 PtII土 焼存 1/5
24-7	須恵器 瓶	復元底部 13.2 現存高 2.3	脚部は丸く腹をせせ、上T字型孔。その高さは少し大きめ。	脚部は丸く腹をせせ、上T字型孔。その高さは少し大きめ。	内面 断続青色(23Y 6/2) 外面 断続青色(23Y 6/2)	粘土 焼成 やや良	実測NO.11 PtII土 焼存 1/5
24-8	須恵器 瓶	復元底部 4.1 現存高 2.5	脚部は丸く腹をせせ、上T字型孔。底部は丸く腹をせせ。	脚部は丸く腹をせせ、上T字型孔。底部は丸く腹をせせ。	内面 断続青色(23Y 6/2) 外面 断続青色(23Y 6/2)	粘土 焼成 やや良	実測NO.13 PtII土 焼存 1/5
24-9	須恵器 瓶	現存高	口縁部は直線的に外方にへきり、底部は丸い。	口縁部は直線的に外方にへきり、底部は丸い。	内面 断続青色(23Y 6/2) 外面 断続青色(23Y 6/2)	粘土 焼成 やや良	実測NO.12 PtII土 焼存 1/2

辨認番号	器種	法量(cm)	形態の特徴	技法の特徴	色調・胎土・焼成	備考
24-10	須恵器 磁		口縁周部以外は断面形容が三 角形を呈する突唇と印彫をも せる。	内外面は凹凸アラフ。ロクロ目付は 右方向。外面下半には印彫卓文 の施設が文。	内面 灰色(75Y 6/7) 外面 斧青灰褐色(25G Y 2/1) 胎土 精良 焼成 低温	第1トレンチ 第4層出土
24-11	須恵器 磁		杯底は、やや内傾する杯身に のびる、端部下方には2条の凹痕 を残す。	外底下部には施設した小字印文。 その他の内外面とも白陶アラフ。	内面 灰白色( N 7/7 ) 外面 斧青灰褐色( N 5/ ) 胎土 精良 焼成 低温	第1トレンチ 第4層出土
24-12	須恵器 磁		浅杯は、やや内傾する杯身に のびる、端部下方には2条の凹痕 を残す。	内面は施設した小字印文。	内面 灰色( N 6/ ) 外面 灰色( N 6/ ) 胎土 精良 焼成 低温	第1トレンチ 第4層出土
24-13	須恵器 磁		浅杯の特徴。	内面上面はナマ。その他の内面は 同心円文。外面は平行四辺形目文の 上に横方向のカット目。	内面 灰色( N 6/ ) 外面 灰色( N 6/ ) 4/1 自然物 オーブ黒褐色(75Y 3/2) 胎土 やや精良 焼成 低温	第1トレンチ 第5層出土 内外面に自然釉付着 外面上半部剥離 第1トレンチ 第5層出土
	須恵器 長持	長大長 最大幅 14.2	杯身2点、裏1点、ガラス器品(不透明)が詰有。頸部は浮彫で無い。			第1トレンチ 第5層出土
24-14	須恵器 杯身(1) (施設)		口縁周部は内傾する凹面をもつ。	内面は直板アラフ。	内面 灰色( N 6/ ) 胎土 精良 焼成 低温	第1トレンチ 第5層出土
	須恵器 杯身(2) (施設)				内面 灰色( N 6/ ) 胎土 やや精良 焼成 低温	
	須恵器 蓋(施設)			内面は盛りかい、中心円文。外面は施 設子ふくらみ印文。	内面 オリーブ灰色(25G Y 5/1) 外面 灰色( N 5/ ) 自然物 精良 胎土 やや精良 焼成 低温	外面上に自然釉付着
25-15	須恵器 蓋	現存高 5.0	口縁部は直板的で外方へDの上 右方向。	内面は直板アラフ。ロクロ目付は 右方向。	内面 水灰リーブ色(5Y 6/2) 外面 水灰オーブ色(5Y 6/2) 胎土 精良 焼成 低温	第1トレンチ 第5層出土
						実測NO. 1-5

押出番号	器 種	法量 (cm)	形態の特徴	投法の特徴	色調・粘土・焼成 条件	備 考
25-16	土鍋型 高杯	復元口径 復元高 3.1	中空の器形。斜状部と直筒部との 間に複雑な屈曲部をつらはずな だらかに広がる。	脣部内面は表裏で 板状のハケH。 外側は内外面ともヨコカナ。底 部内面はナダ。	色調 内面 明赤褐色 (5YR 5/8) 外面 明赤褐色 (5YR 5/8) 粘土 精良 焼成 良好	熱帯トランシーブ 4段焼成 内火泥とも重ね 内火泥とも重ね
25-17	土鍋型 皿	復元口径 復元高 1.2	口縁部は外上方へのび、丁寧な 形状やや外反きである。	口縁部は内外面ともヨコカナ。底 部内面はナダ。	色調 内面 に近い黄褐色 (10YR 6/3) 外面 に近い黄褐色 (10YR 6/3) 粘土 精良 焼成 良好	実測NO. 248 工事会(株)蔵 焼成 L/S
25-18	土鍋型 (灯明皿)	復元口径 復元高 11.6 2.0	口縁部は外上方へのび、丁寧な 形状やや外反きである。	口縁部は内外面ともヨコカナ。底 部内面はナダ。外側はナダ-指頭 形状。	色調 内面 浅黄褐色 (10YR 8/3) 外面 浅黄褐色 (10YR 8/3) 粘土 精良 焼成 良好	実測NO. 243 熱帯トランシーブ 4段焼成 内火泥とも重ね 内火泥とも重ね
25-19	土鍋型 皿	復元口径 復元高 9.4 1.5	口縁部は外上方へのび、丁寧な 形状やや外反き。火候感覚につづる。	口縁部は内外面ともヨコカナ。底 部内面はナダ。外側はナダ-指頭 形状。	色調 内面 に近い黄褐色 (10YR 6/3) 外面 に近い黄褐色 (10YR 6/3) 粘土 精良 焼成 良好	実測NO. 242 工事会(株)蔵 完形
25-20	土鍋型 皿	復元口径 復元高 7.8 1.0	口縁部は内外面とも外上方へのび、 横部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコカナ。底 部内面はナダ。外側はナダ-指頭 形状。	色調 内面 浅色 (7.5YR 5/4) 外面 浅色 (7.5YR 5/4) 粘土 精良 焼成 良好	実測NO. 241 工事会(株)蔵 焼成 L/S 内火泥とも重ね
25-21	土鍋型 (灯明皿)	復元口径 復元高 8.0 1.6	口縁部は外上方へのび、 横部は丸い。	口縁部は内外面ともヨコカナ。底 部内面はナダ。外側はナダ-指頭 形状。	色調 内面 浅黄褐色 (10YR 8/3) 外面 浅黄褐色 (10YR 8/3) 粘土 精良 焼成 良好	実測NO. 246 熱帯トランシーブ 4段焼成 内火泥とも重ね
25-22	土鍋型 (灯明皿)	復元口径 復元高 9.8 1.5	口縁部は外上方へのび、 横部は丸い。底部は平底。	口縁部は内外面ともヨコカナ。底 部内面はナダ。外側はナダ-指頭 形状。	色調 内面 に近い褐色 (7.5YR 6/4) 外面 に近い褐色 (7.5YR 6/4) 粘土 精良 焼成 良好	実測NO. 240 工事会(株)蔵 4段焼成 内火泥とも重ね
25-23	土鍋型 (灯明皿)	復元口径 復元高 10.0 2.3	口縁部は外上方へのび、 横部は丸い。底部は平底。	口縁部は内外面ともヨコカナ。底 部内面はナダ。外側はナダ-指頭 形状。	色調 内面 浅黄褐色 (10YR 8/3) 外面 浅黄褐色 (10YR 8/3) 粘土 精良 焼成 良好	実測NO. 244 熱帯トランシーブ 4段焼成 内火泥 3/4
25-24	土鍋型 (灯明皿)	復元口径 復元高 9.5 2.0	口縁部は外上方へのび、 横部は丸い。底部は平底。	口縁部は内外面ともヨコカナ。底 部内面はナダ。外側はナダ-指頭 形状。	色調 内面 浅黄褐色 (10YR 8/3) 外面 浅黄褐色 (10YR 8/3) 粘土 精良 焼成 良好	実測NO. 243 熱帯トランシーブ 4段焼成 内火泥 1/4 内火泥とも重ね

探査番号	器 種	法 量(cm)	形 態の特徴	技法の特徴	色 調 基 土・焼 成	備 考
25-25	土器盤 裏	復元口径 現存高 1.9	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。内外面にはナード、指壓压痕。 内面にはナード、外縁にはナード、指壓压痕。	内面 に赤い褐色(75TR 5/3) に赤い褐色(75TR 5/3)	第21シナチ第3層出土 残存 1/7
25-26	土器盤 裏	復元口径 現存高 2.6	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。底部は中央 が深くなっている。	内面 に赤い褐色(10YR 6/3) 黄灰色(25Y 5/1)	第21シナチ第3層出土 残存 9/10
25-27	土器盤 土蓋	復元口径 現存高 31.8	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。底部は中央 が深くなっている。	内面 に赤い褐色(75YR 5/2) 黄灰色(10YR 7/3)	第21シナチ第3層出土 大和埋蔵(菅原家領) 残存 4/3
25-28	瓦質土器 (焼成?)	復元口径 現存高 2.9	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。底部は中央 が深くなっている。	内面 に赤い褐色(10YR 5/2) 黄灰色(1N 3/ )	第21シナチ第3層出土 大和埋蔵(菅原家領) 残存 3/4
26-29	瓦器 輪	復元口径 現存高 3.7	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。底部は中央 が深くなっている。	内面 に赤い褐色(5Y 1/7) 黄灰色(5Y 1/8)	第21シナチ第3層出土 大和埋蔵(菅原家領) 残存 1/7
26-30	瓦器 輪	復元口径 現存高 2.5	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。底部は中央 が深くなっている。	内面 に赤い褐色(5Y 1/7) 黄灰色(5Y 1/8)	第21シナチ第3層出土 大和埋蔵(菅原家領) 残存 1/10
26-31	瓦器 輪	復元口径 現存高 2.7	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。底部は中央 が深くなっている。	内面 に赤い褐色(5Y 1/7) 黄灰色(5Y 1/8)	第21シナチ第3層出土 大和埋蔵(菅原家領) 残存 1/10
26-32	瓦器 輪	復元口径 現存高 3.6	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。底部は中央 が深くなっている。	内面 に赤い褐色(5Y 1/7) 黄灰色(5Y 1/8)	第21シナチ第3層出土 大和埋蔵(菅原家領) 残存 1/6
26-33	瓦器 輪	復元口径 現存高 2.8	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。	口縁部は外上方にのび、口縁部 全体や外反させ、尖り突出ついて いる。底部は中央 が深くなっている。	内面 に赤い褐色(5Y 1/7) 黄灰色(5Y 1/8)	第21シナチ第3層出土 大和埋蔵(菅原家領) 残存 1/6

押出番号	器種	法量(cm)	形態の特徴	技法の特徴	色調・胎土・焼成	備考
26-34	瓦器 棺	規矩高 3.1	口縁端部を丸くしたもの。	内外面に横幅方向の筆文。	色調 内面 黄褐色(N 3')	斯古トレンチ第3層出土
26-35	瓦器 棺	規矩高台径 1.6 規矩高台径 4.8 規矩高 4.6	口縁端部外面はナメ。内面には横幅方向の筆文。外縁はナメ。指圧直角。内面には横幅方向の筆文。外縁はナメ。指圧直角。規矩は逆三角形を呈する。	内面 黄褐色(N 3') 外面 黄褐色(N 3')	美術工芸会(第3層)出土 焼成 1/2	NO. 4.33
26-36	瓦器 棺	規矩高台径 4.4 規矩高台径 5.2	口縁端部を丸くさせ、沈底を出す。高台の断面形態は逆三角形を呈する。	内面 黄褐色(N 3') 外面 黄褐色(N 3')	美術工芸会(第3層)出土 焼成 1/2	NO. 4.4
26-37	瓦器 棺	規矩高台径 3.0 規矩高 4.9	口縁端部を丸くさせ、沈底を出す。高台の断面形態は逆三角形を呈する。	内面 黄褐色(N 3') 外面 黄褐色(N 3')	美術工芸会(第3層)出土 焼成 1/2	NO. 4.48
26-38	瓦器 棺	規矩高台径 4.2 規矩高台径 4.6 規矩高 4.7	口縁端部を丸くさせ、沈底を出す。高台の断面形態は逆三角形を呈する。	内面 黄褐色(N 3') 外面 黄褐色(N 3')	美術工芸会(第3層)出土 焼成 7/8	NO. 4.45
26-39	瓦器 棺	規矩高台径 4.6 規矩高 5.2	口縁端部を丸くさせ、沈底を出す。高台の断面形態は逆三角形を呈する。	内面 黄褐色(N 3') 外面 黄褐色(N 3')	美術工芸会(第3層)出土 焼成 3/7	NO. 4.30
26-40	瓦器 棺	規矩高台径 4.0 規矩高 5.0	口縁端部を丸くさせ、沈底を出す。高台の断面形態は逆三角形を呈する。	内面 黄褐色(N 3') 外面 黄褐色(N 3')	美術工芸会(第3層)出土 焼成 1/2	NO. 4.42
26-41	瓦器 棺	規矩高台径 4.2 規矩高台径 5.0	口縁端部を丸くさせ、沈底を出す。高台の断面形態は逆三角形を呈する。	内面 黄褐色(N 3') 外面 黄褐色(N 3')	美術工芸会(第3層)出土 焼成 1/2	NO. 4.47
26-42	瓦器 棺	規矩高台径 5.2 規矩高 5.2	口縁端部を丸くさせ、沈底を出す。高台の断面形態は逆三角形を呈する。	内面 黄褐色(N 3') 外面 黄褐色(N 3')	美術工芸会(第3層)出土 焼成 1/3	NO. 4.43

辨認番号	器 種	標 記	法量(cm)	形態の特徴	技法の特徴	色調・胎土・焼成	備 考
26-43	瓦器 桶	復元口径 現存高	14.4 4.5	口縁端部をやや外反させ、沈縫を施す。	内面はナード、指腹圧印。外面上には横方向の滑文。	赤褐色(N 5') 外面 黑色(N 5')	工事立会(第3層)出土 残存 1/4
26-44	瓦器 桶	復元口径 現存高	14.9 3.2	口縁端部をやや外反させ、沈縫を施す。	内面はナード、指腹圧印。外面上には横方向の滑文。	赤褐色(N 5') 外面 黑灰色(SB 5/1) 胎土 機具 良好	実測NO.4-6 工事立会(第3層)出土 残存 1/10
26-45	瓦器 桶	復元口径 現存高	14.0 3.0	口縁端部をやや外反させ、沈縫を施す。	内面はナード、指腹圧印。外面上には横方向の滑文。	赤褐色(N 5') 外面 黑灰色(SB 5/1) 胎土 機具 良好	実測NO.4-22 工事立会(第3層)出土 残存 1/9
26-46	瓦器 桶	復元口径 現存高	15.0 2.9	口縁端部をやや外反させ、沈縫を施す。	内面はナード、指腹圧印。外面上には横方向の滑文。	赤褐色(N 6') 外面 黑色(N 5') 胎土 機具 良好	実測NO.4-21 第1レーベー第3層出土 残存 1/10
26-47	瓦器 桶	復元口径 現存高	13.6 3.7	口縁端部をやや外反させ、沈縫を施す。	内面はナード、指腹圧印。外面上には横方向の滑文。	赤褐色(N 5') 外面 黑色(N 4') 胎土 機具 良好	実測NO.4-28 工事立会(第3層)出土 残存 1/7
26-48	瓦器 桶	復元口径 現存高	14.6 3.5	口縁端部をやや外反させ、沈縫を施す。	内面はナード、指腹圧印。外面上には横方向の滑文。	赤褐色(N 5') 外面 黑色(N 5') 胎土 機具 良好	実測NO.4-19 工事立会(第3層)出土 残存 1/7
26-49	瓦器 桶	復元口径 現存高	6.8 1.7	口縁端部をやや外反させ、沈縫を施す。	内面はナード、指腹圧印。外面上には横方向の滑文。	赤褐色(N 5') 外面 黑色(N 5') 胎土 機具 良好	実測NO.4-47 第2レーベー第4層出土 残存 1/3 外表面焼成
27-50	瓦器 桶	復元高台径 現存高	6.0 1.8	高台は外側状に高く。 三脚孔。	足込みには低い平行基部滑文。 底部外側はナード、その他の部分は滑文。	赤褐色(N 5') 外面 黑色(N 5') 胎土 機具 良好	実測NO.4-18 第1レーベー第4層出土 残存 1/4
27-51	瓦器 桶	復元高台径 現存高	6.0 1.8	高台は外側状に高く。 三脚孔。	足込みは平行基部滑文か。	赤褐色(N 5') 外面 黑色(N 5') 胎土 機具 良好	実測NO.4-16 第1レーベー第4層出土 残存 1/4

押印番号	器種	法量(cm)	形態の特徴	技法の特徴	色調・施土・焼成	備考
27-52	瓦器 梗	復元高台径 6.0 現存高 1.9	高台は長い、外縁部に直く。 断面形態は直三角形。		色調 内面 灰褐色(5YR 4/2) 外面 灰白色(2.5Y 8/2)	赤土レンヂ新羅出土 残存 1/3 内外面とも薄削 実測NO.4.20 焼成[レンヂ新羅出土
27-53	瓦器 梗	復元高台径 6.0 現存高 1.6	高台は厚い、外縁部に湾き、断面形態は 直二角形。	見込みは平行線状横文。	色調 内面 灰色(N 4/4) 外面 灰色(N 4/4)	赤土 極良 地底 不良
27-54	瓦器 梗	復元高台径 5.0 現存高 1.5	高台は長い、断面形態は直三角形。	見込みは平行線状横文。	色調 内面 灰色(N 4/4) 外面 灰色(N 4/4)	赤土 極良 地底 良好
27-55	瓦器 梗	復元高台径 5.0 現存高 1.5	高台は長い、断面形態は直三角形。	見込みは圓心円状横文。	色調 内面 灰色(N 4/4) 外面 灰色(N 4/4)	赤土 極良 地底 良好
27-56	瓦器 梗	復元高台径 5.2 現存高 2.1	高台は長い、断面形態は直三角形。	見込みは圓心円状横文。	色調 内面 灰色(10Y 7/1) 外面 灰色(10Y 7/1)	赤土 極良 燒成 良好
27-57	瓦器 梗	復元高台径 4.6 現存高 1.0	高台は長い、断面形態は直三角形。	見込みは圓心円状横文。	色調 内面 灰褐色(10BG 4/1) 外面 灰青灰色(10BG 4/1)	赤土 極良 地底 良好
27-58	瓦器 梗	復元高台径 5.2 現存高 1.2	高台は長い、断面形態は直三角形。	見込みは圓心円状横文。	色調 内面 灰白色(2.5Y 7/1) 外面 灰白色(2.5Y 7/1)	赤土 極良 燒成 良好
27-59	瓦器 梗	復元高台径 5.6 現存高 0.8	高台は長い、断面形態は直三角形。	見込みは圓心円状横文。	色調 内面 施土(5Y 5/1) 外面 灰白色(5Y 5/1)	赤土 極良 燒成 良好
27-60	瓦器 梗	復元高台径 5.2 現存高 1.1	高台は長い、断面形態は直三角形。	内面には細い同心円状横文。基 部外側にはナラ-指標記。裏、その他 は焼ナラ。	色調 内面 所白色(10YR 8/1) 外面 所白色(10YR 8/2)	赤土 極良 燒成 良好

探査番号	器 種	法量(cm)	形態の特徴	技法の特徴	色調 粘土・焼成	備 考
27-61	瓦盤	口径 器高 19	口縁部はやや外反気味に外上方へ へのびる。底面は中央がやや窪む。 内面はナグ、その他の部分はナグ。 内面には無い平行繩状 压痕。見込みには無い平行 繩文を施す。	口縁部は外側と内側とのコナド、底部 はナグ、その他の部分はナグ。指 印痕。底面には無い平行繩状 压痕。見込みには無く、平行 繩文を施す。	内面 青灰色 (UBG 5/1) 外面 青灰色 (UBG 5/1) 粘土 燒成 良好	工事立会(新潟)出土 残存 2/3 実測NO. 32
27-62	瓦盤	口径 器高 17	口縁部はやや外反気味に外上方へ へのびる。底面は中央がやや窪む。 内面はナグ、その他の部分はナグ。 内面には無い平行繩状 压痕。見込みには無く、平行 繩文を施す。	口縁部は外側と内側とのコナド、底部 はナグ、その他の部分はナグ。指 印痕。底面には無い平行繩状 压痕。見込みには無く、平行 繩文を施す。	内面 灰褐色 (N 5/1) 外面 灰褐色 (N 4/1) 粘土 燒成 良好	工事立会(新潟)出土 残存 2/3 実測NO. 33
27-63	陶器(埴輪馬)	復元高台径 現存高 12	高台の断面を側面は方形とする。 出っ、内面に施す。底部外側面中央 に「清水」の印記。	高台はケブリ。 底部外側はケブリ。高台はケブリ。 出っ、内面に施す。底部外側面中央 に「清水」の印記。	内面 灰オーブ (5Y 6/2) 外面 灰白色 (5Y 7/2) 粘土 燒成 良好	新潟レジデンス1~2層出土 残存 1/3 実測NO. 52
27-64	陶器(埴輪馬)	復元高台径 現存高 1.7	高台の断面を側面は方形とする。 出っ、内面に施す。底部外側面中央 に「清水」の印記。	底部外側はケブリ。高台はケブリ。 出っ、内面に施す。底部外側面中央 に「清水」の印記。	内面 浅青色 (25Y 7/3) 外面 浅黄色 (25Y 8/3) (施釉) 白灰色 (72Y 8/2) 粘土 燒成 良好	新潟レジデンス1~2層出土 残存 1/6 実測NO. 53
27-65	陶器(埴輪馬)	現存 (現跡?)	口縁部を上方へ屈曲させ、另側 を玉縄状につくる。側面は面取り が行なわれ、方角につくる。	内外面とも屈曲ナグ。	内面 褐色 (75YR 4/4) 外面 褐色 (75YR 4/4) 粘土 燒成 良好	新潟レジデンス1~2層出土 新戸系 実測NO. 54

# 図 版

図版一 山辺三中村遺跡



航空写真（2000年撮影）

図版二 山辺三中村遺跡



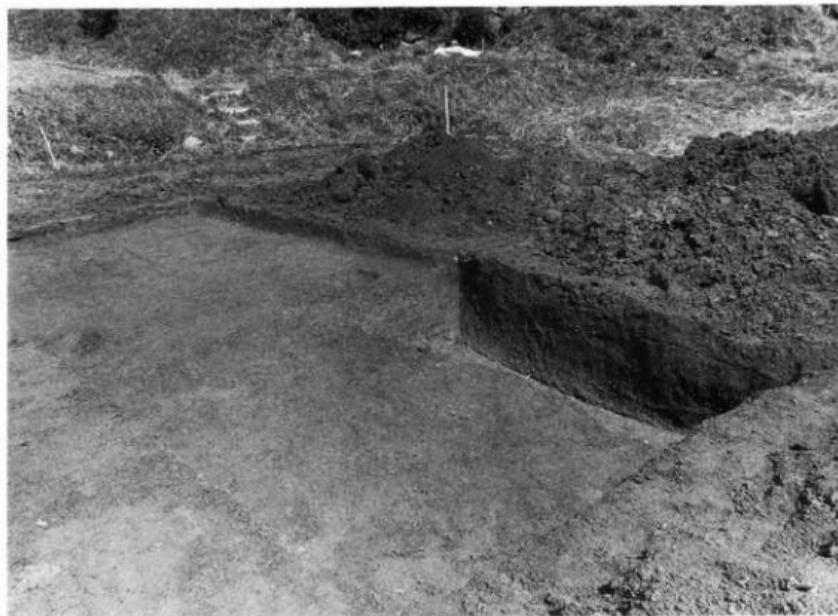
調査前（東から）



調査後（南東から）



検出遺構（南西から）



土層断面（南から）



航空写真（1999年撮影）



調査風景（南から）



調査区（東から）



航空写真（南西上空から）



航空写真（西上空から）



近代造構面（南から）



第2造構面（南から）



第2・3遺構面（南から）



第2・3遺構面（東から）



礎石建物SB201（南から）



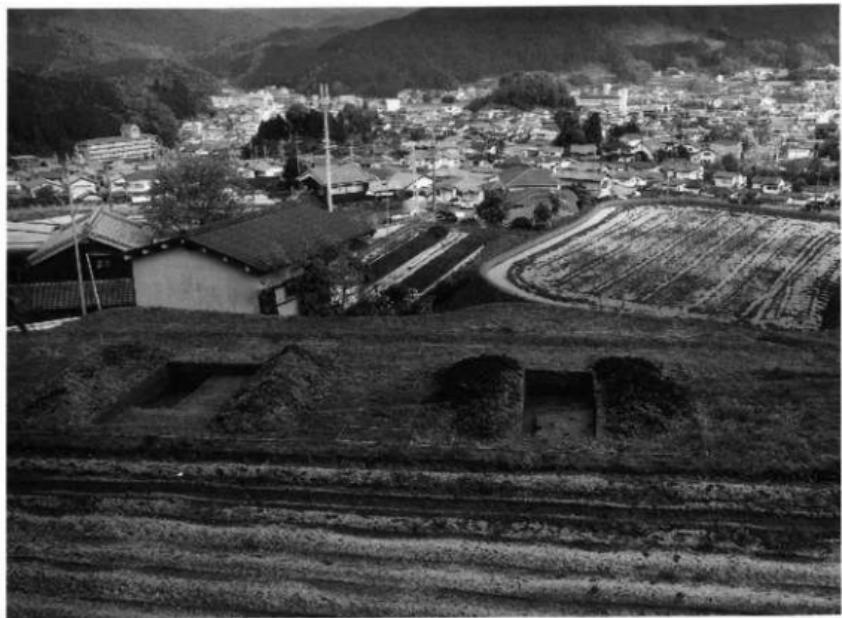
礎石建物SB301（南から）



航空写真（1999年撮影）



調査前（南西から）



調査後（北西から）



第1トレンチ（北西から）



第1トレンチ（北西から）



第1 トレンチ土層断面（西から）



第1 トレンチ土層断面（南西から）

図版一四 萩原薬師田遺跡



第2 トレンチ（北西から）



第2 トレンチ土層断面（南西から）



6



14



14



14



14



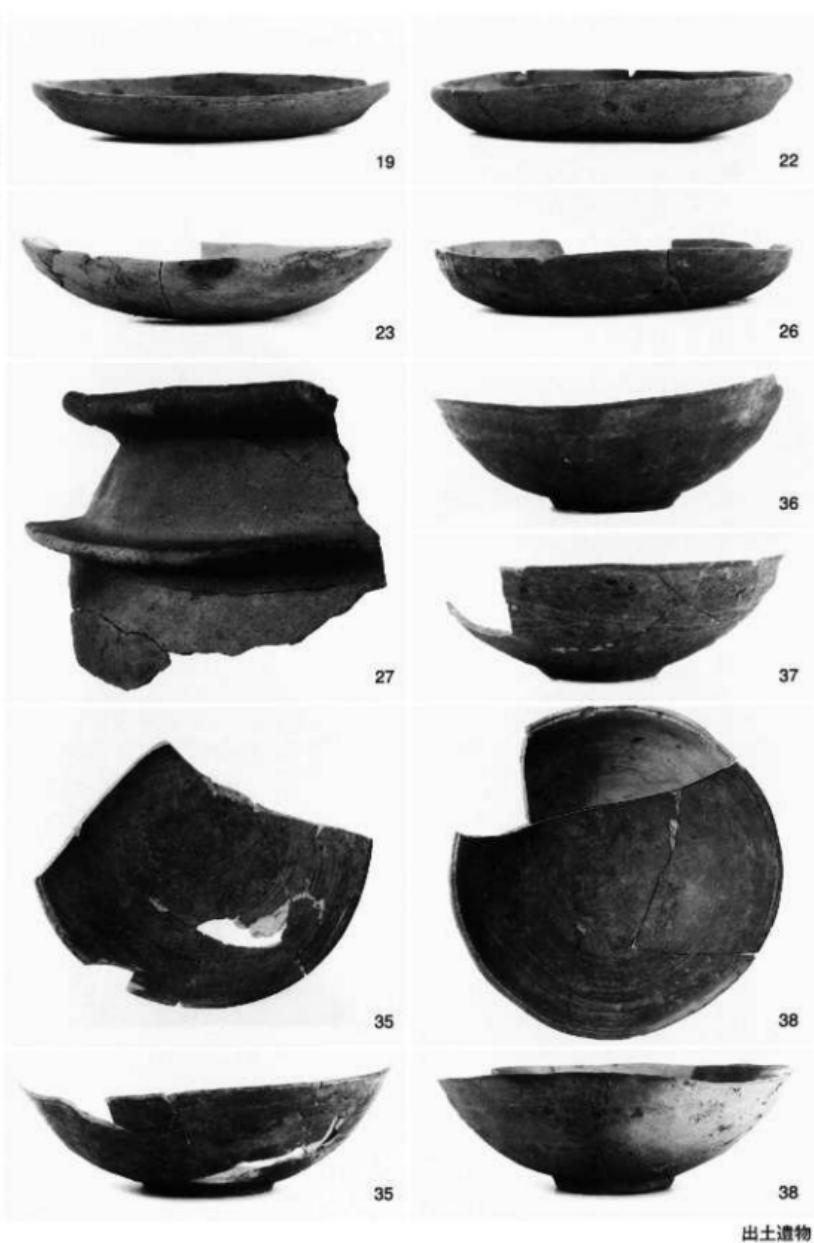
14



14

出土遺物

圖版一六 萩原菜師田遺跡



出土遺物





63



64

出土遺物



西祚区 木造薬師如來坐像

# 報告書抄録

ふりがな	はいばらちょうないいいせきはつくちょうさかいようほうくしょ						
書名	榛原町内遺跡発掘調査概要報告書 2002年度						
副書名							
巻次							
シリーズ名	榛原町文化財調査概要						
シリーズ番号	27						
編著者名	柳澤一宏						
編集機関	榛原町教育委員会						
所在地	〒633-0292 奈良県宇陀郡榛原町大字下井足17番地の3 TEL 0745-82-1301(代)						
発行年月日	西暦 2004年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査原因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	上段:世界遺産登録 下段:日本語訳			
山辺三中村遺跡 (第2次調査)	奈良県宇陀郡榛原町 大字山辺三1728番地	29383		34度33分14秒 34度33分03秒	135度59分11秒 135度59分22秒	2003.03.11 21	個人住宅 建設工事
清水谷遺跡 (第1次調査)	奈良県宇陀郡榛原町 大字萩原 元玉小西2014-4番地	29383		34度32分10秒 34度31分58秒	135度57分03秒 135度57分13秒	2002.11.01 2002.11.07 1	個人住宅 建設工事
下城・馬場遺跡 (第8次調査)	奈良県宇陀郡榛原町 大字沢1288、1292番地	29383		34度29分34秒 34度29分22秒	135度58分09秒 135度58分19秒	2002.04.17 2002.10.04 285	範囲確認 調査
萩原薬師田遺跡 (第1次調査)	奈良県宇陀郡榛原町 大字萩原 元玉小西2236番地	29383		34度32分13秒 34度32分1秒	135度56分48秒 135度56分58秒	2002.04.30 2002.09.09 25	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
山辺三中村遺跡 (第2次調査)	遺物散布地 (居館跡?)	縄文～古墳、平安～中世	なし	須恵器、土師器、瓦器、 土師質土器、瓦質土器、 陶器、磁器			
清水谷遺跡 (第1次調査)	遺物散布地	弥生～古墳、中世	なし	なし			
下城・馬場遺跡 (第8次調査)	遺物散布地 城館跡	縄文～古墳、中世 中世	礫石建物、土坑、 ビット、溝、カット面	サヌカ小、須恵器、土師器、 瓦器、瓦質土器、青磁、陶器、 組紐、鍵刀、鍵、鉤沖、 鉛石、地盤、鏡、漆器、 鏡、瓦、壁土、灰化物他	火災により焼失した 礫石建物(米蔵)を検出		
萩原薬師田遺跡 (第1次調査)	遺物散布地	古墳、中世	土坑、ビット	須恵器、土師器、瓦器、 瓦質土器、陶器、空壁片			

桙原町内遺跡発掘調査概要報告書 2002年度

桙原町文化財調査概要 27

2004年3月31日

発行 桙原町教育委員会  
編集 奈良県宇陀郡桙原町大字下井足17番地の3

印刷 明新印刷株式会社  
奈良市南京終町3丁目464番地